

(様式第 10)

医板病公発第 7 3 号
平成 2 9 年 1 0 月 3 日

厚生労働大臣

殿

管理者名 病院長 平山 篤志 (印)

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒102-8275 東京都千代田区九段南四丁目8番24号
氏 名	学校法人日本大学 理事長 田中 英壽

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

日本大学医学部附属板橋病院

3 所在の場所

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30番1号	電話(03) 3972 - 8111
-------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
<input checked="" type="checkbox"/> 1呼吸器外科 <input checked="" type="checkbox"/> 2消化器外科 <input checked="" type="checkbox"/> 3乳腺外科 <input checked="" type="checkbox"/> 4心臓外科 <input checked="" type="checkbox"/> 5血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 6心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 7内分泌外科 <input checked="" type="checkbox"/> 8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 1精神科 <input checked="" type="checkbox"/> 2小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 3整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 4脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 5皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> 6泌尿器科 7産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 8産科 <input checked="" type="checkbox"/> 9婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 10眼科 <input checked="" type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科 <input checked="" type="checkbox"/> 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 <input checked="" type="checkbox"/> 15麻酔科 <input checked="" type="checkbox"/> 16救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 <input checked="" type="checkbox"/> 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科	2 リハビリテーション科	3 疼痛緩和外科	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21				

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43床	0床	12床	0床	970床	1,025床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	465人	93.2人	558.2人	看 護 補 助 者	13人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	9人	7.7人	16.7人	理 学 療 法 士	15人	臨床検査技師	81人
薬 剤 師	76人	1.8人	77.8人	作 業 療 法 士	3人	衛生検査技師	0人
保 健 師	75人	0人	75人	視 能 訓 練 士	6人	その他	0人
助 産 師	45人	0人	45人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	924人	0.4人	924.4人	臨 床 工 学 士	29人	医療社会事業従事者	0人
准 看 護 師	1人	0人	1人	栄 養 士	3人	その他の技術員	12人
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	83人
管理栄養士	8人	0人	8人	診 療 放 射 線 技 師	70人	その他の職員	11人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	25人	眼 科 専 門 医	14人
外 科 専 門 医	43人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	10人
精 神 科 専 門 医	19人	放 射 線 科 専 門 医	7人
小 児 科 専 門 医	48人	脳 神 経 外 科 専 門 医	16人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整 形 外 科 専 門 医	22人
泌 尿 器 科 専 門 医	11人	麻 酔 科 専 門 医	22人
産 婦 人 科 専 門 医	18人	救 急 科 専 門 医	8人
		合 計	271人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (平山 篤志) 任命年月日 平成 26年 11月 1日

現在までに、医療安全向上に資するために以下の研修を受講しております。

管理者 (病院長)

開催日 : 平成 28年 5月 16日 主催 : 医療安全共同行動 研修名 : 病院管理者研修

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	835.0人	3.6人	838.6人
1日当たり平均外来患者数	1,984.4人	59.8人	2,044.2人
1日当たり平均調剤数	外来分 39.2剤, 入院分 1,117剤		
必要医師数	203.59人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	27.83人		
必要(准)看護師数	488人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1001.487 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	45床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 94.11 m ² [移動式の場合] 台数 15 台		病床数	5 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 21.22 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	416.34m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析機 Labospect008, 免疫科学自動分析機 Cobas8000			
細菌検査室	107.44m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感受性分析装置 ライフ スコー, 血液培養装置 Bactec			
病理検査室	135.48m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動固定包装装置, 自動染色装置, クリオスタット, パーチャルスライド機			
病理解剖室	82.73m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台3台, (L型昇降式1第含), パーソナルプロテクションシステム3セット			
研究室	27.28m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン, 顕微鏡, 電子カルテ			
講義室	194.27m ²	鉄筋コンクリート	室数	4 室	収容定員	125 人
図書室	1015.10m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	205,008冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	84.2%	逆紹介率	58.1%
算出根拠	A：紹介患者の数			25,032人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			20,815人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			5,145人
	D：初診の患者の数			35,833人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山科 章	東京医科大学 循環器内科教授・医師	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する学外者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
各務 武希	光和総合法律事務所・弁護士		法律に関する識見を有する学外者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
後藤 利美	東京都報道事業健康保険組合常務理事		医療を受ける者その他の医療従事者以外の学外者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
小林 清	医学部事務局 長		本大学教職員	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
渡部 弘樹	本部病院経営 指導管理オフィス特任課長		本大学教職員	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 無
公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上で公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	膠原病に合併した後天性血栓性血小板減少性紫斑病に対する抗CD20抗体加療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 シェーグレン症候群に後天性TTPを発生したが、既存の治療に抵抗性であり難治性で重症病態あった。 そのため、有効性は報告されているが保険適応外使用であるリツキシマブ投与を行った。			
医療技術名	ミコフェノール酸モフェチル(MMF)を用いたGVHDの予防	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 MMFは免疫抑制剤として有用な薬剤であるが、まだ保険適応として認められていない疾患もある。 当科では主にHLAハプロ一致移植例に保険適応外使用であるMMF投与を行った。			
医療技術名	気管支サーモプラスチック	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重症気管支喘息患者に対し、気管支鏡下にカテーテルを気管支壁に接触させ、熱処理することにより気道平滑筋量を減少させ、喘息の症状や発作を軽減させる。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	188人
当該医療技術の概要 手術室において全身麻酔で筋弛緩を確保した状態において電気けいれん療法を行う。難治性うつ病および統合失調症が対象。			
医療技術名	覚醒療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 難治性うつ病に対し、病棟において夜間睡眠時間帯を覚醒して過ごす全断眠を行い抑うつ症状の改善をはかる。			
医療技術名	高照度光療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 うつ病に対し、高照度光照射を行い抑うつ症状の改善をはかる。			
医療技術名	植込み型補助人工心臓	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 植込型補助人工心臓(非拍動流型)は、心臓移植適応の重症心不全患者で、薬物療法や体外式補助人工心臓等などの他の補助循環法によっても継続した代償不全に陥っており、かつ、心臓移植以外には救命が困難と考えられる症例に対して、心臓移植までの循環改善を目的として行われている。			
医療技術名	内視鏡補助下上顎洞バルーン法による眼窩骨骨折の低侵襲治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 眼窩骨骨折に対して顔面の皮膚切開ならびに骨移植を行わない低侵襲治療を施行している。			
医療技術名	JCOG1114C	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する照射前大量メトトレキサート療法+放射線治療と照射前大量メトトレキサート療法+テモゾロミド併用放射線治療+テモゾロミド維持療法とのランダム化比較試験			
医療技術名	JCOG1303	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 手術後残存腫瘍のあるWHO Grade II星細胞腫に対する放射線単独治療とテモゾロミド併用放射線療法を比較するランダム化第III相試験			
医療技術名	術中神経モニタリング・マッピング	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 脳外科手術時の、神経機能保護・機能野の判別を目的とした術中電気刺激による神経機能モニタリング・マッピング			

医療技術名	覚醒下手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 言語関連領域の病変摘出時における覚醒下での術中マッピング			
医療技術名	高齢者腰椎変性後側弯症に対する矯正固定術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 高齢者脊柱変形の矯正固定によりADLの拡大を図る。			
医療技術名	人工関節感染に対する再置換術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 人工関節後の感染に対する再置換術で膝関節と股関節がある。			
医療技術名	転移性脊柱腫瘍に対する低侵襲脊柱固定術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 転移性脊柱腫瘍に対する低侵襲手術で、経皮的脊弓根スクリューにて固定する。			
医療技術名	広汎(準広汎)子宮頸部摘出術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 子宮頸癌に対して、妊孕性温存(子宮体部+卵巣温存)しながら頸部病変を切除した後に子宮頸部を再建する術式。子宮頸癌の根治手術でありながら、治療後に妊娠が可能である。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮体癌根治術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を用いて、リンパ節郭清も含めた子宮体癌手術を行う。低侵襲手術であり、1週間以内の入院で治療できる。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎摘除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 副腎腫瘍(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫)に対する腹腔鏡下の手術である。 副腎静脈の処理が必須であり、高度の技術を要する。			
医療技術名	腹腔鏡下根治的腎摘除術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 腎細胞癌(特にT1b以上)に対する腹腔鏡下の手術である。腎動静脈の処理が必須であり、高度の技術を要する。			
医療技術名	腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 腎細胞癌(特にT1a)に対する腹腔鏡下の手術であり、腫瘍の摘除後、腎の縫合もあり、高度の技術を要する。			
医療技術名	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 腎盂癌および尿管癌に対する腹腔鏡下の手術である。後腹膜到達法で行うため、手術操作のスペースが狭く、高度の技術を要する。			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 腎盂尿管移行部狭窄症に対する腹腔鏡下の手術である。腎盂の縫合があり、高度の技術を要する。			
医療技術名	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 浸潤性膀胱癌に対する腹腔鏡下の手術である。開腹手術に比べ非常に低侵襲であり、高度の技術を要する。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要 前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下の手術である。前立腺および精嚢を摘除後、膀胱尿道吻合が必須であり、高度の技術を要する。			

医療技術名	腹腔鏡下仙骨腫固定術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下の手術である。骨盤内での縫合操作が多く、高度の技術を要する。			
医療技術名	内視鏡下副鼻腔手術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 好酸球副鼻腔炎症例の手術			
医療技術名	角膜移植術	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要 光学的・治療的な角膜の移植(全層角膜移植術・角膜内皮移植術・深層層状角膜移植術など)			
医療技術名	QFS (Post Q fever fatigue syndrome)の診断・治療の補佐	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 現在、Q熱の慢性型の1つであるQFSの患者の診断・治療を実質的に行っているのは、国内で本院のみである。 また、国内推定QFS患者数は約350万人である。			
医療技術名	第2項先進医療【先進医療A】番号9 MEN1遺伝子診断	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 多発性内分泌腫瘍症1型(MEN1)が疑われるものについてダイレクトシーケンシングにて遺伝子診断を実施した。罹患者1名、保因者1名の計2名である。			
医療技術名	家族性ドルーゼン(DHRD)の遺伝学的検査	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 眼科領域疾患である家族性ドルーゼンMalattia Leventinese (ML)/Dooyne honeycomb retinal dystrophy (DHRD)の遺伝学的検査を実施した。			
医療技術名	家族性低カルシウム尿性高カルシウム血症の遺伝学的検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 家族性低カルシウム尿性高カルシウム血症を含むCASR遺伝子の遺伝学的検査を実施した。			
医療技術名	術中迅速診断	取扱患者数	629人 (組織診606人, 細胞診23人)
当該医療技術の概要 手術中の患者の臓器の一部が術者より病理診断科へ提出され、特殊なゲルで包むように検体を急速凍結させ、マイナス30℃の環境に設定された機器内で薄切し、通常染色を行い、標本を15～30分内に作製する。通常固定の標本に比して診断が困難な標本であるが、可能な限りの診断を手術中の担当者に伝えている。術者にとり、重要な情報となっている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症		56	ベーチェット病	53
2	筋萎縮性側索硬化症	11	57	特発性拡張型心筋症	32
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	8
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	3	60	再生不良性貧血	30
6	パーキンソン病	337	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	87
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	94	66	IgA腎症	15
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	32
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	56	68	黄色靱帯骨化症	8
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	7	69	後縦靱帯骨化症	78
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	
17	多系統萎縮症	9	72	下垂体性ADH分泌異常症	12
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	37	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	18
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	30	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	20
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	19
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	6
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	61
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	15
31	ペスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	7
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	9	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	18	90	網膜色素変性症	23
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	10	92	特発性門脈圧亢進症	6
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	58
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	
40	高安動脈炎	21	95	自己免疫性肝炎	22
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病	52
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	269
43	顕微鏡的多発血管炎	29	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	9	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	25	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	305	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	104	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	88	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	46	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	120	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	7	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
113	筋ジストロフィー	7	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	3	167	マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	36	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	5
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	3
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュヤー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウルジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β ーケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1入院基本料, 結核病棟7:1入院基本料, 精神病棟15:1入院基本料(看護補助加算3))	・精神疾患診療体制加算
・入院時食事療養(Ⅰ)	・救命救急入院料4
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・特定集中治療室管理料3
・歯科外来診療環境体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・歯科診療特別対応連携加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料1
・診療録管理体制加算2	・
・医師事務作業補助体制加算 75:1	・
・急性期看護補助体制加算 50:1	・
・看護職員夜間配置加算 12:1配置加算 2	・
・看護補助加算3	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・
・後発医薬品使用体制加算 1	・
・病棟薬剤業務実施加算 1・2	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算 2・3	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病合併症管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん患者指導管理料1・2・3	・内服・点滴誘発試験
・外来緩和ケア管理料	・センチネルリンパ節生検(片側)(単独)、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後・造血幹細胞移植)	・画像診断管理加算2
・糖尿病透析予防指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・院内トリアージ実施料	・冠動脈CT撮影加算
・外来放射線照射診療料	・外傷全身CT加算
・ニコチン依存症管理料	・心臓MRI撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・乳房MRI撮影加算
・排尿自立指導料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外来化学療法加算1
・薬剤管理指導料	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料1・2	・心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
・歯科治療総合医療管理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・運動器リハビリテーション料Ⅰ
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
・検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)	・がん患者リハビリテーション料
・国際標準検査管理加算	・集団コミュニケーション療法料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・認知療法・認知行動療法2
・胎児心エコー法	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・ヘッドアップティルト試験	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・持続血糖測定器加算、皮下連続式グルコース測定	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・神経学的検査	・医療保護入院等診療料
・補聴器適合検査	・硬膜外自家血注入

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・エタノール局所注入(甲状腺に対するもの)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・エタノール局所注入(副甲状腺に対するもの)	・補助人工心臓
・透析液水質確保加算2	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・歯科技工加算	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・生体部分肝移植術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・羊膜移植術	・生体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜再建術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・輸血管管理料 I
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・輸血適正使用加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・自己生体組織接着剤作成術
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
下痢症ウイルスの分子疫学、構造の特徴、進化とワクチン設計	早川 智	産婦人科	1,000,000円	補委	文科省科研費
本邦ではまれな肝細胞腺腫の疫学調査、および臨床病理学的、免疫・分子病理学的研究	杉谷 雅彦	病理診断科	1,430,000円	補委	文科省科研費
早産児における自己臍帯血輸血による新たな神経学的後障害予防戦略	細野 茂春	小児科	1,560,000円	補委	文科省科研費
杯細胞分化のシグナル伝達の解明と治療応用	山上 聡	眼科	1,560,000円	補委	文科省科研費
マウス各発達段階組織を用いたヒト小児肝腫瘍、腎腫瘍における腫瘍関連遺伝子の検討	杉藤 公信	小児外科	650,000円	補委	文科省科研費
腫瘍特異的遺伝子の解析によるヒト腎芽腫およびヒト肝芽腫の新規腫瘍関連遺伝子の探索	越永 従道	小児外科	1,170,000円	補委	文科省科研費
超低出生体重児におこる消化管疾患の発症メカニズム解明と新規治療法の開発	大橋 研介	小児外科	1,040,000円	補委	文科省科研費
睡眠相後退型概日リズム睡眠障害に対する統合的時間生物学治療法の開発	内山 真	精神神経科	1,040,000円	補委	文科省科研費
プラズマによる腫瘍特異的細胞死の誘導機序に関する研究	松田 裕之	総合科(内科)	1,690,000円	補委	文科省科研費
プラズマによる腫瘍特異的細胞死の誘導機序に関する研究	相馬 正義	総合科(内科)	1,690,000円	補委	文科省科研費
組織型が混在する乳癌のミトコンドリアDNA変異解析による癌細胞系譜の解明	増田 しのぶ	病理診断科	260,000円	補委	文科省科研費
メタボリック症候群が心房細動の進行および血栓形成に与える影響	奥村 恭男	循環器内科	1,950,000円	補委	文科省科研費
気道分泌型エクソソームの情報に基づく喘息・COPDの病態解明とバイオマーカー探索	権 寧博	呼吸器内科	1,430,000円	補委	文科省科研費
進行性腎障害に対する脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞移植治療の開発	丸山 高史	腎臓高血圧内分泌内科	1,300,000円	補委	文科省科研費
次世代シーケンサーを用いた統合解析による大腸癌肝転移に関するゲノム解析	緑川 泰	消化器外科	1,950,000円	補委	文科省科研費
パーキンソン病に対する脳深部刺激療法 of 長期予後に影響する因子の検討	深谷 親	脳神経外科	910,000円	補委	文科省科研費
局所電場電位と単一細胞活動分析によるパーキンソン病のβ帯域オシレーションの解明	小林 一太	脳神経外科	1,170,000円	補委	文科省科研費
脳卒中後の疼痛と運動麻痺に対するDual-lead SCSの効果	山本 隆充	脳神経外科	1,300,000円	補委	文科省科研費
前立腺癌におけるアンドロゲン応答機構の解明とそれを制御する新規治療薬の開発	高橋 悟	泌尿器科	1,430,000円	補委	文科省科研費
アンギオテンシン受容体を介した新たな子宮腺筋症の治療戦略	千島 史尚	産婦人科	910,000円	補委	文科省科研費
PAX3-FOXO1陽性横紋筋肉腫に対するアルキル化PIポリアミドの抗腫瘍効果	古屋 武史	小児外科	1,950,000円	補委	文科省科研費
脱分化脂肪細胞(DFAT)を導入した次世代型人工皮膚の開発	副島 一孝	形成外科	1,560,000円	補委	文科省科研費
Dell1による遺伝子治療の作用機序の解明	北野 尚孝	歯科口腔外科	1,560,000円	補委	文科省科研費
冠動脈血管内イメージングと病理組織像との対比	羽尾 裕之	病理診断科	1,950,000円	補委	文科省科研費
単一遺伝子疾患バリエーションにおいて多型か変異かを区別する効率的な手法確立	中山 智祥	臨床検査医学科	2,080,000円	補委	文科省科研費

複合的血管内イメージングと独自の流体数理モデルによる急性冠症候群の発症機序解明	廣 高史	循環器内科学	2,340,000円	補委	文科省科研費
ヒト疾患特異的iPS細胞を用いた遺伝性尿管疾患診断法の確立	羽毛田 公	腎臓高血圧内分泌内科	1,430,000円	補委	文科省科研費
炎症性皮膚疾患患者における腸内細菌叢の解析	藤田 英樹	皮膚科	1,040,000円	補委	文科省科研費
管内胆管痛特異的融合遺伝子を標的としたアルキル化剤の開発	高木 恵子	消化器外科	1,820,000円	補委	文科省科研費
マイクログリア制御による頭部外傷後脳損傷の治療	茂呂 修啓	脳神経外科	3,640,000円	補委	文科省科研費
悪性神経膠腫に対する核酸類緑体の抗腫瘍効果	吉野 篤緒	脳神経外科	1,820,000円	補委	文科省科研費
脱分化脂肪細胞による組織増量と耳管組織リモデリング-耳管障害の新治療戦略-	大島 猛史	耳鼻咽喉科	1,300,000円	補委	文科省科研費
ヒト神経芽腫におけるDFATを用いた新規神経分化誘導法の検討	金田 英秀	小児外科	1,690,000円	補委	文科省科研費
Direct reprogrammingを用いた短腸症候群の新規治療法の開発	小沼 憲祥	小児外科	910,000円	補委	文科省科研費
脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた高齢者難治性皮膚潰瘍の治療法の開発	檜村 勉	形成外科	1,040,000円	補委	文科省科研費
遺伝子改変インスリン分泌細胞株の効率的作製法開発とインスリン分泌機構解明への応用	石原 寿光	糖尿病代謝内科	1,820,000円	補委	文科省科研費
敗血症・虚血再灌流傷害患者に対する5-アミノレブリン酸の抗炎症効果	木下 浩作	救命救急センター	1,690,000円	補委	文科省科研費
酸化ストレスによる不整脈基盤形成の機序解明とSema3Aによる電気的心筋再生療法	黒川 早矢香	循環器内科	1,170,000円	補委	文科省科研費
皮膚炎症性疾患におけるマスト細胞L型カルシウムチャネルの働き	葉山 惟大	皮膚科	1,300,000円	補委	文科省科研費
PIポリアミドによる核DNAをターゲットにした新たな放射線増感剤の開発	石橋 直也	放射線科	1,040,000円	補委	文科省科研費
脊髄くも膜下麻酔後の脳血流酸素代謝変化と心拍出量及び体血管抵抗の関係	近藤 裕子	麻酔科	650,000円	補委	文科省科研費
神経芽腫における血管新生系を標的としたPIポリアミドによる抗腫瘍効果の検討	植草 省太	小児外科	2,080,000円	補委	文科省科研費
HPV特異的T細胞の再生医療(T-iPS)を用いた子宮頸癌の細胞療法に関する研究	川名 敬	産婦人科	45,479,395円	補委	文科省科研費
舌痛症における脳病態解明に向けて-脳形態及び機能に関する統合的高磁場MRI解析	阿部 修	放射線科	2,470,000円	補委	文科省科研費
睡眠時無呼吸症候群における腎交感神経と高血圧のメカニズム解明	小山(小倉)彩世子	臨床検査医学科	1,690,000円	補委	文科省科研費
耳管腺の分泌機構の解明とその制御=難治性中耳疾患の治療戦略=	大島 猛史	耳鼻咽喉科	130,000円	補委	文科省科研費
繊維筋痛症患者とその家族との生活再構築に向けた在宅における心理教育的支援の強化	丸岡 秀一郎	呼吸器内科	39,000円	補委	文科省科研費
繊維筋痛症患者とその家族との生活再構築に向けた在宅における心理教育的支援の強化	釋 文雄	呼吸器内科	65,000円	補委	文科省科研費
エクソーム解析による生殖細胞ならびに体細胞系列における乾癬原因変異の網羅的探索	照井 正	皮膚科	130,000円	補委	文科省科研費
川崎病性血管炎が弾性血管のウインドケッセル機能に与える影響とその機序の解明	鮎澤 衛	小児科	130,000円	補委	文科省科研費
現代版不定愁訴MUSの日本における頻度・プロフィール調査	釋 文雄	呼吸器内科学	65,000円	補委	文科省科研費
抗体薬物複合体による不安定プラークの画像診断・治療の一体化開発	羽尾 裕之	病理診断科	130,000円	補委	文科省科研費
動脈硬化診断支援システムの実用化最終段階に向けた実証研究	廣 高史	循環器内科	520,000円	補委	文科省科研費

補体C3による組織レニン・アンジオテンジン系の活性化から高血圧病態形成	上野 高浩	腎臓高血圧内分泌内科	200,000円	補委	文科省科研費
Burning Mouth Syndrome患者における疼痛修飾機構の解明	雫石 崇	放射線科	20,000円	補委	文科省科研費
オタマジャクシをモデルにした子宮内ストレスが脳のゲノム構造に与える影響	早川 智	産婦人科	200,000円	補委	文科省科研費
HAMならびにHTLV-1陽性難治性疾患に関する国際的な総意形成を踏まえた診療ガイドラインの作成	亀井 聡	神経内科	400,000円	補委	厚生労働科研費
エンテロウイルス等感染症を含む急性弛緩性麻痺・急性脳炎・脳症の原因究明に資する臨床疫学研究	亀井 聡	神経内科	400,000円	補委	厚生労働科研費
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	照井 正	皮膚科	800,000円	補委	厚生労働科研費
希少難治性皮膚疾患に関する調査研究	照井 正	皮膚科	450,000円	補委	厚生労働科研費
梅毒感染リスクと報告数の増加の原因分析と効果的な介入手法に関する研究	川名 敬	産婦人科	1,000,000円	補委	厚生労働科研費
スモンに関する調査研究	亀井 聡	神経内科	1,000,000円	補委	厚生労働科研費
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	加藤 実	麻酔科	200,000円	補委	厚生労働科研費
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	吉田 行弘	整形外科	150,000円	補委	日本医療研究開発機構
転移性肝芽腫に対する薬剤開発戦略としての国際共同臨床試験	越永 従道	小児外科	1,000,000円	補委	日本医療研究開発機構
新型インフルエンザ等への対応に関する研究	亀井 聡	神経内科	2,500,000円	補委	日本医療研究開発機構
抗菌薬3剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療にかかる医師主導治験実施	加藤 公敏	総合科(内科)	780,000円	補委	日本医療研究開発機構
AYA世代における急性リンパ性白血病の生物学的特性と小児型治療法に関する研究	八田 善弘	血液膠原病内科	650,000円	補委	日本医療研究開発機構
ゲノム・エピゲノム解析による子宮頸癌前駆病変(CIN)患者の子宮頸癌発症リスクの特定とそれに基づくCIN患者の個別化リスク低減法に関する研究	早川 智	産婦人科	321,850円	補委	日本医療研究開発機構
骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の指針策定	徳橋 泰明	整形外科	650,000円	補委	日本医療研究開発機構
ノン・ハイリスク群小児悪性固形腫瘍の安全性と治療後QOLの向上への新たな標準治療法開発のための多施設共同臨床研究	越永 従道	小児外科	1,769,999円	補委	日本医療研究開発機構
HIV感染防御ワクチン開発に関する研究	川名 敬	産婦人科	1,116,651円	補委	日本医療研究開発機構
Adolescent and young adult(AYA)世代に及ぶ骨・軟部肉腫ならびに固形がんに対する妊娠・晩期合併症に考慮した治療プロトコル開発に関する研究	陳 基明	小児科学	700,000円	補委	日本医療研究開発機構
難治性小児悪性固形腫瘍における診断バイオマーカーの同定と新規治療法の開発に関する研究	越永 従道	小児外科	2,899,999円	補委	日本医療研究開発機構
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	高橋 悟	泌尿器科	273,000円	補委	日本医療研究開発機構
睡眠脳波を用いたうつ病の客観的評価の実用化に関する研究	内山 真	精神神経科	5,104,000円	補委	日本医療研究開発機構
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	高山 忠利	消化器外科	960,000円	補委	日本医療研究開発機構
子宮頸癌に対する粘膜免疫を介したヒトパピローマウイルス(HPV)分子標的免疫療法の臨床応用に関する研究	川名 敬	産婦人科	12,047,100円	補委	日本医療研究開発機構

計78

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	kitamura N, Takei M.	血液膠原病内科	The change of bone erosion using denosumab to rheumatoid arthritis.	Journal of Arthritis. 2016April;5:2. (オンライン)	Original Article
2	Iriyama N, Hatta Y, Takei M, et al.	血液膠原病内科	Lyn, a tyrosine kinase closely linked to the differentiation status of primary acute myeloid leukemia blasts, associates with negative regulation of all-trans retinoic acid (ATRA) and dihydroxyvitamin D3 (VD3)-induced HL-60 cells differentiation.	Cancer Cell International. 2016 May;16:37.	Original Article
3	Iriyama N, Miura K, Hatta Y,et al.	血液膠原病内科	Plasma cell maturity as a predictor of prognosis in multiple myeloma.	Medical Oncology. 2016 Aug;33(8):87.	Original Article
4	Kurita D, Hatta Y, Takei M, et al.	血液膠原病内科	A clinicopathologic study of Lennert lymphoma and possible prognostic factors the importance of follicular helper T-cell markers and the association with angioimmunoblastic T-cell lymphoma.	American Journal of Surgical Pathology. 2016;Sep;40(9):1249-60.	Original Article
5	Iriyama , Hatta Y, Takei M.	血液膠原病内科	Direct effect of dasatinib on signal transduction pathways associated with a rapid mobilization of cytotoxic lymphocytes.	Cancer Medicine. 2016 Nov; 5(11):3223-3234.	Original Article
6	Takahashi H, Miura K, Nakagawa M, et al.	血液膠原病内科	Negative impact of concurrent overexpression of MYC and BCL2 in patients with advanced diffuse large B-cell lymphoma treated with dose-intensified immunochemotherapy.	Leukemia & Lymphoma. 2016; Dec; 57(12):2784-2790.	Original Article
7	Miura K, Takahashi H, Nakagawa M,et.al.	血液膠原病内科	Clinical significance of co-expression of MYC and BCL2 protein in aggressive B-cell lymphomas treated with a second line immunochemotherapy.	Leuk Lymphoma. 2016 Jun ;57(6):1335-1341.	Original Article
8	Kurita D, Takeuchi K, Kobayashi S, et al.	血液膠原病内科	A cyclin D1-negative mantle cell lymphoma with an IGL-CCND2 translocation that relapsed with blastoid morphology and aggressive clinical behavior.	Virchows Arch. 2016 Oct ;469(4):471-476.	Original Article
9	Takahashi H, Miura K, Nakagawa M, et al.	血液膠原病内科	Negative impact of concurrent overexpression of MYC and BCL2 in patients with advanced diffuse large B-cell lymphoma treated with dose-intensified immunochemotherapy.	Leuk Lymphoma. 2016 Dec;57(12):2784-2790.	Case report
10	Kurita D, Takeuchi K, Kobayashi S, et al.	血液膠原病内科	A cyclin D1-negative mantle cell lymphoma with an IGL-CCND2 translocation that relapsed with blastoid morphology and aggressive clinical behavior.	Virchows Arch. 2016 Oct;469(4):471-476.	Case report
11	Tsujino I, Nakanishi Y, Hiranuma H, et al.	呼吸器内科	Increased phosphorylation of ERK1/2 is associated with worse chemotherapeutic outcome and a poor prognosis in advanced lung adenocarcinoma.	Medical Mollecular Morphology. 2016 Jun;49(2):98-109	Original Article
12	Gon Y, Maruoka S, Inoue T, et al.	呼吸器内科	Gene expression analysis in airway-secreting extracellular vesicles upon house dust mite exposure.	Allergol Int. 2016 Sep;65 Suppl:S53-S55	Original Article

13	Gon Y, Maruoka S, Kishi H, et al.	呼吸器内科	DsRNA disrupts airway epithelial barrier integrity through down-regulation of claudin members.	Allergol Int. 2016 Sep;65 Suppl:S56-S58	Original Article
14	Hashimoto S, Ikeuchi H, Murata S, et al.	呼吸器内科	Efficacy and safety of indacaterol/glycopyrronium in Japanese patients with COPD:a subgroup analysis from the SHINE study.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2016 Oct 11;11:2543-2551	Original Article
15	Shaku F, Tsutsumi M	呼吸器内科	The Effect of Providing Life Support on Nurses' Decision Making Regarding Life Support for Themselves and Family Members in Japan.	American Journal of Hospice and Palliative Medicine. 2016 Dec; 33(10): 917-923	Original Article
16	Kumasawa F, Miura T, Takahashi T, et al.	呼吸器内科	A case of miriplatin-induced lung injury.	J Infect Chemother. 2016 Jul; 22(7): 486-489	Case report
17	Kozu Y, Gon Y, Takano Y, et al.	呼吸器内科	Time-course of Serum Pro-inflammatory Cytokines and Chemokines Levels Observed in Granulomatosis with Polyangiitis: A Case Report.	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis. 2016 Dec 23; 33(4): 407-412	Case report
18	Iida Y, Takano Y, Ishiwatari Y, et al.	呼吸器内科	Diffuse Alveolar Hemorrhage Associated with Makyo-kanseki-to Administration.	Intern Med. 2016 11; 55(22): 3321-3323	Case report
19	Hagiwara E, Gon Y, Hayashi K, et al.	呼吸器内科	Evaluation of airway resistance in primary small cell carcinoma of the trachea by MostGraph:a case study.	Journal of Thoracic Disease. 2016 8; (8): 702-706	Case report
20	Mizumura K, Maruoka S, Gon Y, et al.	呼吸器内科	The role of necroptosis in pulmonary diseases.	Respir Investig. 2016 Nov; 54(6): 407-412	Review
21	Tsujino I, Nakanishi Y, Hiranuma H, et al.	呼吸器内科	Increased phosphorylation of ERK1/2 is associated with worse chemotherapeutic outcome and a poor prognosis in advanced lung adenocarcinoma.	Med Mol Morphol. 2016.Jun;49 : 98-109.	Original Article
22	Abe M, Okada K, Maruyama N, et al.	腎臓高血圧内分泌内科	Comparison of Clinical Trajectories before Initiation of Renal Replacement Therapy between Diabetic Nephropathy and Nephrosclerosis on the KDIGO Guidelines Heat Map.	Journal of Diabetes Research 2016; Article ID 5374746, 9 pages	Original Article
23	Abe M, Higuchi T, Moriuchi M, et al.	腎臓高血圧内分泌内科	Efficacy and safety of saxagliptin, a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, in hemodialysis patients with diabetic nephropathy: A randomized open-label prospective trial	DIABETES RESEARCH AND CLINICAL PRACTICE 2016 Jun;116:244-52.	Original Article
24	Kobayashi H, Haketa A, Ueno T, et al.	腎臓高血圧内分泌内科	Subtype prediction in primary aldosteronism: measurement of circadian variation of adrenocortical hormones and 24-h urinary aldosterone.	CLINICAL ENDOCRINOLOGY 2016 Jun;84(6):814-21	Original Article
25	Kobayashi H, Abe M, Yoshida Y, et al.	腎臓高血圧内分泌内科	Glycated Albumin versus Glycated Hemoglobin as a Glycemic Indicator in Diabetic Patients on Peritoneal Dialysis	INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES 2016 Apr 25;17(5).	Original Article
26	Otsuki T, Higuchi T, Yamazaki T, et al.	腎臓高血圧内分泌内科	Efficacy and safety of Pregabalin for the treatment of neuropathic pain in patients undergoing hemodialysis.	CLINICAL DRUG INVESTIGATION 2017 Jan;37(1):95-102.	Original Article

27	Kobayashi H, Haketa A, Ueno T, et al.	腎臓高血圧内分泌内科	Plasma adrenocorticotrophic hormone but not aldosterone is correlated with blood pressure in patients with aldosterone-producing adenomas.	Journal of Clinical Hypertension 2017 Mar;19(3):280-286.	Original Article
28	Okumura Y, Watanabe I, Hirayama A, et al.	循環器内科	Inflammatory biomarkers in atrial fibrillation: are they linked to future outcomes?	Heart. 2016. 1 ;487-9	Review
29	Iso K, Okumura Y, Hirayama A, et al.	循環器内科	Wall thickness of the pulmonary vein-left atrial junction rather than electrical information as the major determinant of dormant conduction after contact force-guided pulmonary vein isolation.	Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology. 2016; Sep: 46: 325-33	Original Article
30	Okumura Y, Watanabe I, Hirayama A, et al.	循環器内科	What Scoring System Should We Use to Assess Bleeding Risk in Atrial Fibrillation?	Circulation Journal. 2016; Sep : 80: 2089-91	Review
31	Takahashi K, Okumura Y, Hirayama A, et al.	循環器内科	Anatomical proximity between ganglionated plexi and epicardial adipose tissue in the left atrium: implication for 3D reconstructed epicardial adipose tissue-based ablation.	Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology. 2016; Nov: 47: 203-12	Original Article
32	Okumura Y, Watanabe I, Hirayama A, et al.	循環器内科	Clinical utility of automated ablation lesion tagging based on catheter stability information (VisiTag Module of the CARTO 3 System) with contact force-time integral during pulmonary vein isolation for atrial fibrillation.	Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology. 2016; Nov: 47: 245-52	Original Article
33	Watanabe Ichiro	循環器内科	Initial and Secondary ST-T Alternans During Acute Myocardial Ischemia in the In-Situ Pig Heart.	International Heart Journal. 2016; May: 57: 327-55	Original Article
34	Kogawa R, Okumura Y, Hirayama A, et al.	循環器内科	Difference Between Dormant Conduction Sites Revealed by Adenosine Triphosphate Provocation and Unipolar Pace-Capture Sites Along the Ablation Line After Pulmonary Vein Isolation.	International Heart Journal. 2016;Dec: 57: 25-9	Original Article
35	Takayama T, Hiro T, Hirayama A, et al.	循環器内科	Evaluation of the safety and efficacy of TY-51924 in patients with ST elevated acute myocardial infarction - Early phase II first in patient pilot study.	Journal of Cardiology. 2016; Feb; 67: 162-9	Original Article
36	Takayama T, Hiro T, Hirayama A, et al.	循環器内科	Comparison of the Effect of Rosuvastatin 2.5 mg vs 20 mg on Coronary Plaque Determined by Angioscopy and Intravascular Ultrasound in Japanese With Stable Angina Pectoris (from the Aggressive Lipid-Lowering Treatment Approach Using Intensive Rosuvastatin for Vulnerable Coronary Artery Plaque [ALTAIR] Randomized Trial).	Am J Cardiol. 2016; Apr: 117: 1206-12	Original Article
37	Takayama T, Hiro T, Hirayama A, et al.	循環器内科	A case of giant saphenous vein graft aneurysm followed serially after coronary artery bypass surgery.	Open Med (Wars).2016; May :11: 155-7	Case report
38	Yoda S, Matsumoto N, Hirayama A, et al.	循環器内科	Prognostic Value of Major Cardiac Event Risk Score Estimated With Gated Myocardial Perfusion Imaging in Japanese Patients With Coronary Artery Disease.	International heart Journal. 2016; Jul: 57: 408-16.	Original Article
39	Kogawa R, Watanabe I, Okumura Y, et al.	循環器内科	Usefulness of filtered unipolar electrogram morphology for evaluating transmural of ablated lesions during pulmonary vein isolation.	J Arrhythm. 2016; Apr; 32 : 108-11.	Original Article
40	Sasaki N, Okumura Y, Watanabe I, et al.	循環器内科	Localized rotors and focal impulse sources within the left atrium in human atrial fibrillation: A phase analysis of contact basket catheter electrograms.	J Arrhythm. 2016; Apr: 32 : 141-4.	Original Article

41	Takahashi K, Watanabe I, Okumura Y, et al.	循環器内科	Noninvasive surrogate markers to predict thrombogenesis in patients with nonvalvular atrial fibrillation.	J Nihon Univ Med Ass. 2016; Dec: 75:88-91.	Original Article
42	Ichiro Watanabe	循環器内科	Relationship between extracellular potassium accumulation and local TQ-Segment potential during graded coronary flow reduction in a porcine myocardial ischemia model.	J Nihon Univ Med Ass. 2016; June: 75:254-9.	Original Article
43	Kogawa R, Watanabe I, Okumura Y, et al.	循環器内科	Dominant Frequencies and Fractionation Intervals: A Comparison of Bipolar and Unipolar Electrogram-Derived Values.	J. Nihon Univ. Med Ass.2016; June: 75 : 260-7.	Original Article
44	Nagashima K, Watanabe I, Okumura Y, et al.	循環器内科	Ventriculoatrial Intervals ≤ 70 ms in Orthodromic Atrioventricular Reciprocating Tachycardia. Pacing Clin Electrophysiol.	Pacing Clin Electrophysiol. 2016; Oct :39:1108-15.	Original Article
45	Li Y, Fuchimoto D, Sudo M, Haruta H, et al.	循環器内科	Development of Human-Like Advanced Coronary Plaques in Low-Density Lipoprotein Receptor Knockout Pigs and Justification for Statin Treatment Before Formation of Atherosclerotic Plaques.	J Am Heart Assoc. 2016 Apr;5(4):e002779(オンライン).	Original Article
46	Kumagawa M, Matsumoto N, Watanabe Y, et al.	消化器肝臓内科	Contrast-enhanced ultrasonographic findings of serum amyloid A-positive hepatocellular neoplasm: Does hepatocellular adenoma arise in cirrhotic liver?	World J Hepatol. 2016 Sep ;8(26):1110-1115. (オンライン)	Case report
47	Ishihara H, Wolheim CB.	糖尿病代謝内科	Is Zinc an intra-islet regulator of glucagon secretion?	Diabetol Int. 2016 Jun; 7(2):106-110	Review
48	Ishihara H, Yamaguchi S, Nakao I, et al.	糖尿病代謝内科	Efficacy and safety of ipragliflozin as add-on therapy to insulin in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus(IOLITE) a multi-centre, randomized, placebo-controlled, double-blind study	Diabetes Obes Metab. 2016 Dec ;18(12):1207-1216	Original Article
49	Akimoto T, Morita A, Shiobara K, et al.	神経内科	Surgically Cured, Relapsed Pneumococcal Meningitis Due to Bone Defects, Non-invasively Identified by Three-dimensional Multi-detector Computed Tomography.	Internal Medicine. 2016 Dec;55(24):3665-9.	Case report
50	Ogawa K, Suzuki Y, Takahashi K, et al.	神経内科	Clinical study of 11 patients with midbrain infarction-induced oculomotor nerve palsy.	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases. 2016 Jul;25(7):1631-8.	Original Article
51	Takahashi K, Ogawa K, Ishikawa H, et al.	神経内科	Hospital-based study of the distribution of pathogens in adult bacterial meningitis with underlying disease in Tokyo, Japan.	Neurology and Clinical Neuroscience. 2017 Jan; 5(1):8-17.	Original Article
52	Ogawa K, Suzuki Y, Takahashi K, et al.	神経内科	Clinical study of seven patients with infarction in territories of the anterior inferior cerebellar artery.	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases. 2017 Mar; 26(3):574-81.	Original Article
53	Teramoto H, Morita A, Ninomiya S, et al.	神経内科	Relation between Resting State Front-Parietal EEG Coherence and Executive Function in Parkinson's Disease.	BioMed Research International. 2016 Jun 28 (オンライン)	Original Article
54	Yanai M, Gon Y, Suzuki K, et al.	総合科(内科)	Clinical usefulness of serum 2'-5'-oligoadenylate synthetase for early diagnosis of viral infections among febrile adult patients.	Infectious Diseases, 2016 May;48(5):338-42	Original Article

55	Saito H, Tagawa M, Takahashi Y, et al	小児科	Efficacy of polymyxin B-immobilized fiber column direct hemoperfusion for non-endotoxin-associated severe septic shock	Pediatr International.2016 Dec;58:1346-1347	Case report
56	Ryoji Aoki, Tetsuji Morimoto, Yuno Takahashi, et al.	小児科	Extrapontine myelinolysis associated with severe hyponatremia in infancy	Pediatr International.2016 Sep;58(9):936-9.	Case report
57	Shori Takahashi, Michi Nagata, Hiroshi Saito	小児科	Renal Vasculitis in Children	Pediatric Kidney disease 2017 Feb: 733-757	Others
58	Saito H, Takahashi Y, Takahashi S	小児科	Measurement of blood pressure to detect elusive kidney disease.	Pediatr Int.2017 May;59(5):638-639	Original Article
59	Yanagisawa D, Ayusawa M, Kato M, et al	小児科	Factors affecting N-terminal pro-brain natriuretic peptide elevation in the acute phase of Kawasaki disease.	Pediatr Int. 2016 Nov;58(11):1105-1111	Original Article
60	Nagano N, Yoshikawa K, Hosono S, et al.	小児科	Alveolar capillary dysplasia with misalignment of the pulmonary veins due to novel insertion mutation of FOXF1	Pediatr Int : 2016 Dec, 58:1371-2	Case report
61	Fuwa K, Hosono S, Nagano N, et al.	小児科	Retinopathy of prematurity after sildenafil treatment.	Pediatr Int : 2017 Mar, 59:360-1	Case report
62	Nagano N, Okada T, Kayama K, et al.	小児科	Delta-6 desaturase activity during the first year of life in preterm infants	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids.2016 Dec;115:8-11	Original Article
63	Nagano N, Urakami T, Fuwa K, et al.	小児科	Association between perinatal status and insulin resistance in neonates in the birth period	Journal of Nihon University Medical Association. 2016 Nov : 75 : 211-18	Original Article
64	Hine Kotaro, Hosono Shigeharu, Kawabata Ken, et al.	小児科	Nasopharynx is well suited for the core temperature during hypothermia therapy	Pediatrics International : 2017 Jan : 59 : 27-9	Original Article
65	Fuwa K, Hayakawa S.	小児科	Mechanisms and possible controls of the in utero Zika virus infection: Where is the Holy Grail?	Am J Reprod Immunol : 2017 Feb;77(2) : e12605 (オンライン)	Original Article
66	Saito E1, Okada T, Abe Y, et al.	小児科	Non-high-density Lipoprotein Cholesterol Levels in Japanese Obese Boys with Metabolic Syndrome.	J Atheroscler Thromb. 2016;23(1):105-111.	Original Article
67	Suzuki M, Dallaspazia S, Locatelli C, et al.	精神神経科	Discrepancy between subjective and objective severity as a predictor of response to chronotherapeutics in bipolar depression	Journal of Affective Disorders. 2016 Nov; 204: 48-53	Original Article
68	Suzuki M, Dallaspazia S, Locatelli C, et al.	精神神経科	CLOCK gene variants associated with the discrepancy between subjective and objective severity in bipolar depression	Journal of Affective Disorders. 2017 Mar; 210: 14-18	Original Article

69	Takahashi S, Suzuki M, Uchiyama M, et al.	精神神経科	Replication study of de novo mutations of TAF13 in schizophrenia	Psychiatry Research. 2017 Jan; (オンライン)	Letter
70	Furihata R, Kaneita Y, Jike M, et al.	精神神経科	Napping and associated factors: a Japanese nationwide general population survey.	Sleep Med. 2016 Apr; 20: 72-9	Original Article
71	Furihata R, Hall MH, Stone KL, et al.	精神神経科	An Aggregate Measure of Sleep Health Is Associated With Prevalent and Incident Clinically Significant Depression Symptoms Among Community-Dwelling Older Women.	Sleep. 2017 Mar; 40(3)	Original Article
72	Uchiyama M	精神神経科	Preface	Sleep Biol Rhythms. 2017; 15: 1-2	Others
73	Mana W, Koremasa H, Hideki F, et al.	皮膚科	A case of sporotrichosis caused by Sporothrix globosa in Japan.	Ann Dermatol. 2016 Apr; 28(2): 251-252	Case report
74	Murakami E, Nakanishi Y, Hirotsu Y, et al.	乳腺内分泌外科	Roles of Ras Homolog A in Invasive Ductal Breast Carcinoma.	Acta Histochem Cytochem. 2016.Oct; 49 :131-140.	Original Article
75	Hata H, Sumitomo N, Ayusawa M, et al.	心臓血管外科	Biventricular repair of pulmonary atresia with intact ventricular septum and severely hypoplastic right ventricle: a case report of a minimum intervention surgical approach	J Cardiothorac Surg. 2016 Jul 4;11(1):94.	Case report
76	Sezai A, Osaka S, Yaoita H, et al.	心臓外科	Changeover Trial of Azilsartan and Olmesartan Comparing Effects on the Renin-Angiotensin-Aldosterone System in Patients with Essential Hypertension after Cardiac Surgery (CHAOS Study)	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2016 June;22(3):161-167	Original Article
77	Hata H, Sumitomo N, Ayusawa M, et al.	心臓外科	Biventricular repair of pulmonary atresia with intact ventricular septum and severely hypoplastic right ventricle: a case report of a minimum intervention surgical approach	Journal of Cardiothoracic Surgery. 2016 Jul;11(94): Published online	Case report
78	Sezai A, Osaka S, Yaoita H, et al.	心臓外科	Efficacy of Carperitide in Hemodialysis Patients Undergoing Cardiac Surgery	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery.2016 Aug;22(4):237-245	Original Article
79	Sezai A, Niino T, Osaka S, et al.	心臓外科	New Treatment for Percutaneous Sites in Patients with a Ventricular Assist Device:Nihon University Crystal Violet Method	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2016 Aug;22(4):246-250	Original Article
80	Maeda H, Umeda T, Kawachi H, et al.	血管外科	Cystic Adventitial Disease of the Common Femoral Artery. Case Report and Review of the Literature	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2016 Oct;22(5):315-317	Case report
81	Sezai A, Akahoshi T, Osaka S, et al.	心臓外科	Sleep disordered breathing in cardiac surgery patients:The NU-SLEEP trial	International Journal of Cardiology. 2017 Jan;227: 342-346	Original Article
82	Kurokawa T, Yamazaki S, Mitsuka Y, et al.	消化器外科	Prediction of vascular invasion in hepatocellular carcinoma by next-generation des-r-carboxy prothrombin.	Br J Cancer. 2016 Dec ; 114(1):53-58.	Original Article

83	Kawai T, Yamazaki S, Iwama A, et al.	消化器外科	Focal Sinusoidal Obstruction Syndrome Caused by Oxaliplatin-Induced Chemotherapy: A Case Report.	Hepat Monthly .2016 Sep ;16(9):e37572(オンライン).	Case report
84	Ebisawa K, Midorikawa Y, Higaki T, et al.	消化器外科	Natural history of nonenhancing lesions incidentally detected during the diagnosis of hepatocellular carcinoma.	Surgery. 2016 Sep ;160(3):654-660.	Case report
85	Moro N, Ghavim SS, Harris NG, et al.	脳神経外科	Pyruvate treatment attenuates cerebral metabolic depression and neuronal loss after experimental traumatic brain injury.	Brain Res. 2016 Jul 1;1642:270-277.	Original Article
86	Yamamoto T, Fukaya C, Obuchi T, et al.	脳神経外科	Glioblastoma Multiforme Developed during Chronic Deep Brain Stimulation for Parkinson Disease.	Stereotact Funct Neurosurg. 2016 Nov;94(5):320-325.	Case report
87	Hirayama K, Oshima H, Yamashita A, et al.	脳神経外科	Neuroprotective effects of silymarin on ischemia-induced delayed neuronal cell death in rat hippocampus.	Brain Res. 2016 Sep 1;1646:297-303.	Original Article
88	Yamamoto T, Watanabe M, Obuchi T, et al.	脳神経外科	Importance of Pharmacological Evaluation in the Treatment of Poststroke Pain by Spinal Cord Stimulation.	Neuromodulation. 2016 Oct;19(7):744-751.	Original Article
89	Shijo K, Sutton RL, Ghavim SS, et al.	脳神経外科	Metabolic fate of glucose in rats with traumatic brain injury and pyruvate or glucose treatments: A NMR spectroscopy study.	Neurochem Int. 2017 Jan;102:66-78.	Original Article
90	Yamamoto T, Watanabe M, Obuchi T, et al.	脳神経外科	Spinal Cord Stimulation for Vegetative State and Minimally Conscious State: Changes in Consciousness Level and Motor Function.	Acta Neurochir Suppl. 2017 Jan;124:37-42.	Original Article
91	Kan J,Mishima S,Kashiwakura J, et al.	整形外科	Interleukin-17A expression in human synovial mast cells in rheumatoid arthritis and osteoarthritis.	Allergy International. 2016 Sep;65:S11-16	Original Article
92	Yoshida Y, Okamura Y, Akita M, et al.	整形外科	Two Revision Surgeries on Cemented Custom-made Tumor Prostheses.	Acta Medica Okayama. 2017 Feb; 71(1): 69-72	Case report
93	Takesako H, Osaka E, Yoshida Y, et.al.	整形外科	Secondary malignant giant cell tumor of bone due to malignant transformation 40 years after surgery without radiation therapy, presenting as fever of unknown origin: a case report.	J Med Case Rep. 2016 Mar ;10(1):47.	Case report
94	Hayashi C, Takada S, Kasuga A, et al.	産婦人科	Sigmoid-vaginal fistula during bevacizumab treatment diagnosed by fistulography.	J Clin Pharm Ther. 2016 Dec;41(6):725-726	Case report
95	Azuma. H, Yamamoto. T, Chishima. F.	産婦人科	Effects of anti- β 2-GPI antibodies on cytokine production in normal first trimester trophoblast cells.	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Jul;42(7):769-75.	Original Article
96	Kato E, Yamamoto T, Chishima F.	産婦人科	Effects of Cytokines and TLR Ligands on the Production of PlGF and sVEGFR1 in Primary Trophoblasts	Gynecol Obstet Invest. 2017 Jan;82(1):39-46.	Original Article

97	Takehiro Nakao, Fumihisa Chishima, Masahiko Sugitani, et al.	産婦人科	Expression of Angiotensin II Type 1 and 2 Receptors in Endometriotic Lesions	Gynecology and Obstetric Investigation. 2016 Jul (オンライン).	Original Article
98	Makiyama K Hirai R Oshima T et al	耳鼻咽喉科	OK-432 injectinon therapy for cystadenocarcinoma of the parotid grand:Acase report	Ear Nose Thoroat J95.;189-192.Apr.;2016	Case report
99	Furusaka T Asakawa T shighara S et al	耳鼻咽喉科	Long-term observation of advanced nasopharyngeal sqamous cell carcinoma treated usig combinaton strategy	日大医学雑誌 75(6)275-282.Dec;2016.	Original Article
100	Yukiko Shiraki, Jun Shoji, Noriko Inada	眼科	Clinical Usefulness of Monitoring Expression Levels of CCL24 (Eotaxin-2) mRNA on the Ocular Surface in Patients with Vernal Keratoconjunctivitis and Atopic Keratoconjunctivitis.	J Ophthalmol.2016;2016:3573142.(オンライン)	Original Article
101	Tohru Sakimoto, Akiko Ishimori	眼科	Anti-inflammatory effect of topical administration of tofacitinib on corneal inflammation.	Exp Eye Res. 2016 Apr;145:110-117.	Original Article
102	Jun Shoji, Tohru Sakimoto, Noriko Inada, et al.	眼科	A diagnostic method for herpes simplex keratitis by simultaneous measurement of viral DNA and virus-specific secretory IgA in tears: an evaluation.	Jpn J Ophthalmol. 2016 Jul;60(4):294-301.	Original Article
103	Noriya Hirose, Kondo Y, Maeda T, et al.	麻酔科	Relationship between regional cerebral blood volume and oxygenation and blood pressure during spinal anesthesia in women undergoing cesarean section	Journal of Anesthesia. 2016 Aug;30(4):603-9	Original Article
104	Sakurai A, Kinoshita K, Komatsu T, et al.	救命救急センター	Comparison of Outcomes Between Patients Treated by Therapeutic Hypothermia for Cardiac Arrest Due to Cardiac or Respiratory Causes	Ther Hypothermia Temp Manag. 26/05/2016; 6(3): 130-134	Original Article
105	Hori.S, Kinoshita K	救命救急センター	Clinical characteristics of patients who overdose on multiple psychotropic in Tokyo	J Toxicol Sci. 16/11/2016; 41(6): 765-773	Original Article
106	Kinoshita K	救命救急センター	Traumatic brain injury: Pathophysiology for neurocritical care.	J Intensive Care. 27/04/2016: 4: 29	Original Article
107	Chiba N, Matsuzaki M, Furuya S, et al.	救命救急センター	Complete occlusion of the left main trunk coronary artery by a cardiac papillary fibroelastoma in a hemodynamically unstable patient	J Cardiol Cases. 04/2016; 13: 97-100	Case report
108	Kinoshita K, Kuwana T, Hori S	救命救急センター	Transient heterotopic calcification and unexpected hypercalcemia after treatment of septic shock	Intern Med. 01/05/2016; 55(9): 1207-11	Case report
109	Sano M, Driscoll DR, DeJesus- Monge WE, et al.	病理診断科	Activation of WNT/ β -Catenin Signaling Enhances Pancreatic Cancer Development and the Malignant Potential Via Up-regulation of Cyr61.	Neoplasia. 2016 Dec;18(12): 785-794.	Original Article
110	Sano M, Homma T, Ishige T, et al.	病理診断科	An autopsy case of hyperthyroid cardiomyopathy manifesting lethal congestive heart failure.	Pathol Int. 2017 Feb;67(2) :110-112.	Letter

111	Homma T, Seki T, Suzuki A, et al.	病理診断科	Cytopathological features of pilomyxoid astrocytoma: a case report.	Cytopathology. 2017 Feb; 28(1); 74-77.	Case report
112	Amano Y, Ohni S, Homma T, et al.	病理診断科	First autopsy case report of Familial Mediterranean fever in a Japanese man.	Pathol Int. 2016 Jun; 66(6) ; 351-353.	Case report
113	Homma T, Fukushima T, Yoshino A, Kusumi Y, et al.	病理診断科	A 12-year-old boy with a mass located at the left parietal lobe involving the left lateral ventricle.	Neuropathology. 2016 Apr ;36(2):205-208.	Case report
114	Masuda S	病理診断科	Pathological examination of breast cancer biomarkers: current status in Japan.	Breast Cancer. 2016 Jun;23 :546-51.	Original Article
115	Homma T, Mochizuki Y, Komori T, et al.	病理診断科	Frequent globular neuronal cytoplasmic inclusions in medial temporal region as a possible characteristic feature in multiple system atrophy with dementia	Neuropathology. 2016 Oct;36(5):421-431	Original Article
116	Homma T, Hemmi A, Ohta T, et al.	病理診断科	A rare case of a pineoblastoma with a rhabdomyoblastic component	Neuropathology. 2017 Jun;37(3):227-232.	Case report

計115件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Iriyama N.	血液膠原病内科	慢性骨髄性白血病における微小残存病変評価.	血液フロンティア 2016.07;26(8): 1091-1096.	Review
2	Hatta Y.	血液膠原病内科	慢性骨髄性白血病の 現況と展望.	Cefiro 最新医療情報誌 2016.09;24:18-24.	Review
3	Kitamura N, Nozaki T, Sugiyama K, et al.	血液膠原病内科	骨粗鬆症と骨代謝/変形性関節症・軟骨 ビスホスホネートで治療不十分なステロイド性骨粗鬆症患者に対するデノスマブの臨床効果	日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 2017.3;61th:545.	Others
4	Nozaki T, Hamaguchi M, Yoshizawa S, et al.	血液膠原病内科	過中に抗aquaporin4抗体陽性視神経炎が合併したSLEの1例	日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 2017.3;61th:676.	Others

5	Nagasawa Y, Hamaguchi M, Yoshizawa S, et al.	血液膠原病内科	多発性筋炎・皮膚筋炎 重度の心筋障害を合併した多発性筋炎および皮膚筋炎の2例	日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 61回 2017.3;61th:549.	Others
6	Hashimoto S	呼吸器内科	喘息・COPDオーバーラップ症候群 (ACOS).	日本医師会雑誌. 2016 4; 145(1): 148-150	Review
7	Hashimoto S	呼吸器内科	ACOSの疫学.	ドクターサロン. 2017 3; 61(4): 47-50	Review
8	Takahashi N	呼吸器内科	私の処方「血痰」.	Modern Physician. 2016 11; 36(11): 1222	Review
9	Takahashi N	呼吸器内科	肺がんの症状 特に腫瘍随伴症候群について.	東京内科医会誌. 2016 4; 31(3): 206-209	Review
10	Maruoka S	呼吸器内科	日本心療内科学会 20周年記念誌 大学の心療内科.	日本大学日本心療内科学会誌. 2016 5; 20(2): 106-107	Review
11	福田 昇	腎臓高血圧内分泌内科	高血圧病態理解のためのモデル動物	主治医として診る高血圧診療. 医学書院medicina.2016 10;53巻11号:Page 1720	Others
12	福家 由伸	腎臓高血圧内分泌内科	難治性ネフローゼ症候群の診療	東京内科医会誌.2016年12月; 第32巻第2号:137-41	Others
13	及川 治、阿部 雅紀、他	腎臓高血圧内分泌内科	1. 維持透析患者における深夜長時間オンラインHDFの効果	腎と透析.2016年9月30日;81巻別冊 HDF療法' 16:136-139	Original Article
14	丸山高史、松本太郎	腎臓高血圧内分泌内科	腎疾患に対する脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療	臨床免疫・アレルギー科.2016年6月; 65(6):593-598	Original Article
15	大月伯恭、阿部雅紀	腎臓高血圧内分泌内科	SGLT2阻害薬	腎と透析 2016年8月;81巻2号:203-207	Review
16	Morita A, Konno M, Kamei S	神経内科	インターフェロンによる精神症状.	神経内科. 2017 Feb; 86: 220-224	Review
17	Soma M	総合科(内科)	電解質(Na, K)異常の診断と治療	東京内科医会誌. 2016 Dec;32(2):130-5	Review
18	Soma M	総合科(内科)	高血圧遺伝子研究の進歩	東京都医師会雑誌. 2017 Jan;80(1):8-10	Review
19	Mamoru Ayusawa	小児科	【学校保健パーフェクトガイド】学校管理下における事故・災害と防止対策 学校における事故・災害の実態と防止対策	小児科診療(2016.11)79巻11号 Page1633-1639	Review
20	Yuriko Abe, Mamoru Ayusawa,	小児科	【頭頸部の皮膚・粘膜病変】川崎病	JOHNS (2016.11) 32巻11号 Page1615-1618	Review
21	Maomoru Ayusawa	小児科	【研修医のための乳幼児健診のすすめ】分り別健診のポイント 心疾患のスクリーニング方法	小児科診療79巻5号 Page621-626(2016.05)	Others
22	Sumitomo N., Ishikawa H., Izumida N., et al.	小児科	日本循環器学会/日本小児循環器学会合同ガイドライン【ダイジェスト版】 2016年版 学校心臓検診のガイドライン	循環器病ガイドシリーズ 2016巻学校心臓検診のガイドライン (2016.11)Page81-148	Others

23	Akiko Komori	小児科	【小児の症候群】循環器 Barth症候群	小児科診療(2016.04) 79巻増刊 Page146	Review
24	Hirofumi Watanabe, Hiroshi Kamiyama	小児科	【もっと知りたい!川崎病】川崎病の心エコー検査以外のモダリティでの評価	臨床検査(2016.06) 60巻6号 Page608-612	Others
25	Hiroshi Kamiyama	小児科	【小児慢性疾患の成人期移行の現状と問題点】膠原病 川崎病 川崎病冠動脈障害のトランジション(Q&A/特集)	小児科臨床(2016.04) 69巻4号 Page651-660	Review
26	Hirai Maiko, Yagasaki Hiroshi	小児科	小児白血病の晩期合併症	日本臨床 白血病学(下) 2016年12月; 74巻増刊号10: 414-419.	Review
27	Tanigawa Shuntaro, Yagasaki Hiroshi	小児科	【血球の増加と減少】汎血球減少鑑別のフローチャート	小児内科 2016年7月; 48: 1041-1045.	Review
28	Hirai Maiko, Yagasaki Hiroshi	小児科	小児再生不良性貧血 治療と経過・予後 重症度分類による治療方針	日本臨床 貧血学 2017年1月; 75巻増刊号1: 390-393.	Review
29	Shimozawa Katsuyoshi, Yagasaki Hiroshi	小児科	小児再生不良性貧血 検査・診断・鑑別診断	日本臨床 貧血学 2017年1月; 75巻増刊号1: 385-389.	Review
30	Fukuda A.	小児科	「頭痛の診かたQ&A」日常生活や学校生活での疑問 学校で頭痛が起きた場合、保健室ではどのように対応すればよいですか(解説/特集).	小児内科.(2016.8) ;48:1229-31	Others
31	Kimura K, Fuchigami T.	小児科	「特集頭痛の診かた Q&A」心身症として起きる頭痛の特徴, 診断を教えてください.	小児内科.(2016.8) ;48:1204-6	Others
32	Ishii W.	小児科	腸内細菌による免疫系制御機構—小児神経の視点から—	臨床免疫・アレルギー科. (2016.11) ;66:497-503	Others
33	Suzuki M, Uchiyama M	精神神経科	多剤併用を最適化する基礎知識—睡眠薬	薬事. 2016 Jun; 58(8): 57-62	Review
34	Suzuki M, Uchiyama M	精神神経科	覚醒(断眠)療法が適応となる患者	臨床精神医学. 2016 Dec; 45巻増刊号: 43-45	Review
35	Uchiyama M, Yamada K, Suzuki M	精神神経科	睡眠薬をやめたいと訴える患者	臨床精神医学. 2016 Dec; 45巻増刊号: 412-416	Review
36	Uchiyama M, Suzuki M, Yamada K	精神神経科	ベンゾジアゼピン系睡眠薬の使用	ねむりとマネージメント. 2017 Mar; 4(1): 5-10	Review
37	Hirata K, Shimizu T, Furihata R, et al.	精神神経科	日本神経治療学会 標準的神経治療 不眠・過眠と概日リズム障害	神経治療学. 2016 Jul; 33(4): 573,575-609.	Review
38	Uchiyama M, Konno M, Suzuki T, et al.	精神神経科	レム睡眠行動障害とレビー小体病.	老年精神医学雑誌. 2016 Aug; 27: 846-856	Review
39	Konno M	精神神経科	うつ病に伴う睡眠障害.	睡眠医療. 2017 Jan; 11: 95-99	Review
40	Uchiyama M, Yamada K, Suzuki M	精神神経科	睡眠薬をやめたいと訴える患者	臨床精神医学2016 Dec; 45巻増刊号: 412-416	Review

41	Uchiyama M	精神神経科	ヒト睡眠の調節機構	生体の科学. 2016 Dec; 67 (6): 546-549	Review
42	Uchiyama M	精神神経科	不眠症のメカニズムと治療	練馬区医師会だより. 2016 Dec; 585: 12-21	Review
43	Uchiyama M	精神神経科	糖尿病のうつ・不安障害とそれらに併存する睡眠障害	月刊糖尿病. 2016 Nov; 8 (11): 65-73	Review
44	Uchiyama M	精神神経科	短すぎる睡眠も長すぎる睡眠も健康のリスクに?	Medicina. 2016 Nov; 53 (12): 2030-2035	Review
45	Uchiyama M	精神神経科	不眠症のメカニズムと治療	東京都医師会雑誌. 2016 Sep; 69 (8): 807-813	Review
46	Uchiyama M, Konno M, Suzuki T, et al.	精神神経科	レム睡眠行動障害とレビー小体病	老年精神医学雑誌. 2016 Aug; 27 (8): 846-856	Review
47	Uchiyama M	精神神経科	糖尿病治療薬と一緒に使われる薬のキホン 睡眠薬	Diet Exercise Medicine. 2016 Aug; 13: 08-09	Review
48	Uchiyama M	精神神経科	睡眠障害	臨牀と研究. 2016 May; 93 (5): 615-620	Review
49	Uchiyama M, Konno M, Suzuki T, et al.	精神神経科	高齢者における睡眠の問題とフレイル	老年精神医学雑誌. 2016 May; 27 (5): 511-520	Review
50	Hideki Fujita	皮膚科	特集: 新たな免疫制御治療 乾癬における免疫制御療法.	日大医学雑誌. 2017 Feb; 76(1): 31-35	Others
51	Sezai A, Shiono M	心臓外科	心臓手術における脳合併症をいかに予防するか?	進歩する心臓研究 - Tokyo Heart Journal -. 2016 June; 66: 18-21	Original Article
52	Yasuaki Tokuhashi	整形外科	【ペインクリニックにおける画像診断】 痛みに関する整形外科領域の画像診断 脊椎脊髄疾患による痛み 脊椎・ 脊柱管の血腫	ペインクリニック. 2016 Oct; 37巻別冊秋: S531-S539	Review
53	Uei H, Tokuhashi Y, Oshima M,	整形外科	イラストレイテッド・サージェリー 手術編 転移性脊椎腫瘍に対する経皮的椎弓根スクリューを使用した後方除圧固定術	脊椎脊髄ジャーナル. 2016 Oct; 29(10): 915-923	Review
54	Uei H, Tokuhashi Y, Yoshida Y,	整形外科	脊椎腫瘍 最近の話題 原発性脊椎腫瘍の 治療における最近の進歩	臨牀整形外科. 2016 Jul; 51(7): 593-599	Review
55	Yukihiro Yoshida	整形外科	【悪性骨腫瘍の診断と治療の最前線】 小児悪性骨腫瘍の患肢温存手術療法 延長型腫瘍用人工関節	整形・災害外科. 2016 Jul; 59(8): 1075-1082	Review
56	Kawana.K, Ogita.K, Samejima.S	産婦人科	健やか親子21(第2次)の推進に向けて 妊産婦の視点から見た児童虐待 産婦人科としての取り組み	子どもの心とからだ (0918-5526)2017 Feb; 25巻4号: 370-372	Review
57	Miura K, Hatta Y, Takei M.	血液膠原病内科	血液造血管腫瘍における免疫療法の展望	日大医学雑誌 2016.08; 75 (4): 167-170.	Review
58	Nagasawa Y, Hamaguchi M, Yoshizawa S et al.	血液膠原病内科	敗血症と肺塞栓を合併し、低酸素血症を来した家族性地中海熱の1例	日本臨床免疫学会会誌 2016.08; 39 (4): 402.	Case report

59	Kitamura N, Takei M.	血液膠原病内科	リウマチ性疾患に使用する免疫抑制薬の使い方 ミゾリピン.	リウマチ科 2016.09;56(3): 255-261.	Review
60	Kitamura N.	血液膠原病内科	小児と成人の血管炎.	日大医学雑誌 2016.09;75(4):198-200.	Review
61	Iriyama N.	血液膠原病内科	白血病の予後因子 慢性白血病の予後因子 慢性骨髄性白血病.	日本臨床 2016.10; 74(増刊8):475-479.	Review
62	Hatta Y	血液膠原病内科	急性リンパ性白血球 高2倍体成人リンパ性白血球.	日本臨床 2016.12; 74(増刊10):138-142.	Review
63	Nagasawa Y, Ikumi N, Sugiyama K, et al.	血液膠原病内科	血球貧食症候群(HPS)を合併し、エトポシドが奏効した皮膚筋炎の一例.	関東リウマチ 2016.6;49:172-179.	Others
64	Hatta Y.	血液膠原病内科	免疫チェックポイント 阻害療法.	日大医学雑誌 2017.02;76(1):8-10.	Review
65	Iriyama N.	血液膠原病内科	小分子化合物による免疫制御効果 造血器悪性疾患に対するインパクト.	日大医学雑誌 2017.02;76(1):19-23.	Review
66	Kitamura N.	血液膠原病内科	免疫制御療法とリウマチ膠原病疾患	日大医学雑誌 2017.02;76(1):24-27.	Review
67	Gon Y, Takai J, Mukai I, et al.	呼吸器内科	患者への喘息症状の治療目標の説明と患者満足度の関係.	Therapeutic research. 2016 7; 37(7): 683-693	Original Article
68	Shikano S, Nakagawa Y, Igei K, et al.	呼吸器内科	胃癌によるpulmonary tumor thrombotic microangiopathy(PTTM)の1剖検例.	日大医学雑誌. 2016 11; 75(5): 241-245	Case report
69	Takano Y, Iida Y, Hagiwara E, et al.	呼吸器内科	クリゾチニブによる薬剤性肺障害が疑われた1例.	呼吸と循環. 2016 4; 64(4): 404-408	Case report
70	Takano Y, Sekiyama T, Okamoto N, et al.	呼吸器内科	防水スプレー吸入による急性肺障害の1例.	日大医学雑誌. 2016 4; 75 (2): 92-94	Case report
71	Iida Y, Gon Y, Hagiwara E, et al.	呼吸器内科	非侵襲的陽圧換気で改善した塩酸リドリン誘発性肺水腫の一例.	日大医学雑誌. 2016 6; 75(3): 128-131	Case report
72	Hashimoto S, Hikichi M, Takahashi M, et al.	呼吸器内科	Early life eventからみた喘息とCOPDの発症起源.	臨床免疫・アレルギー科. 2016 11; 66(5): 470-475	Review
73	Hashimoto S, Gon Y, Mizumura K	呼吸器内科	【COPD update-最新の診断・治療動向-】 COPDの併存症と肺合併症への対応.	日本呼吸器学会誌. 2016; 5(増刊): 75	Review
74	Hashimoto S, Hikichi M, Takahashi M	呼吸器内科	加齢とアレルギー呼吸器疾患:治療と管理.	アレルギーの臨床. 2016 9; 36(10): 30-34	Review
75	Hashimoto S, Fukuda A, Hikichi M, et al.	呼吸器内科	各吸入ステロイド薬と長時間作用性β2刺激薬配合薬.	Medical Practice. 2016 12; 33(12): 1955-1959	Review
76	Shaku F	呼吸器内科	高齢期のいわゆる心因性疾患とその対応:各科での対応 心療内科の立場から.	老年精神医学雑誌. 2016 10; 27(10): 1071-1077	Review

77	Gon Y, Hashimoto S	呼吸器内科	睡眠時無呼吸症候群.	内科. 2016 4; 117(4): 603-606	Review
78	Gon Y, Maruoka S, Hashimoto S	呼吸器内科	成人気管支喘息の発症・増悪の予防戦略.	アレルギーの臨床. 2016 8; 36(9): 856-859	Review
79	Gon Y, Maruoka S, Hashimoto S	呼吸器内科	喘息治療薬開発の現状と展望.	日本臨床. 2016 10; 74(10): 1709-1714	Review
80	Gon Y, Ito R, Kogawa N, et al.	呼吸器内科	気管支喘息の治療管理における患者教育の重要性と最近の動向.	アレルギーの臨床. 2016 10; 36(11): 1060-1065	Review
81	Gon Y, Maruoka S, Hashimoto S	呼吸器内科	臨床検体のexosome解析.	アレルギーの臨床. 2016 12; 36(13): 1259-1262	Review
82	Gon Y, Hashimoto S	呼吸器内科	【特集 呼吸器疾患におけるバイオマーカー(BM)】COPD重症化の評価に役立つバイオマーカー.	呼吸器内科. 2016 11; 30(5): 383-388	Review
83	Gon Y, Hashimoto S	呼吸器内科	COPDのテーラーメイド治療; 現状と未来.	呼吸器内科. 2016 12; 30(6): 521-524	Review
84	Maruoka S, Shaku F, Murakami M	呼吸器内科	環境ストレスによる喘息発症とエピジェネティクス.	心身医学. 2016 4; 56(4): 317-321	Review
85	Maruoka S, Matuno T, Ebana S, et al.	呼吸器内科	医療心理士のためのワークショップ:呼吸器疾患の病態及び治療と心理社会的視点の理解 聴いて見て触れて学ぶ呼吸器疾患.	心身医学. 2016 9; 56(9): 914-919	Review
86	Maruoka S, Ebana S, Shaku F, et al.	呼吸器内科	Bedside Teaching 喘息マネジメントにおける心身医学的アプローチ.	呼吸と循環. 2016 9; 64 (9): 922-929	Review
87	Suzuki K, Hayashi Y, Otsuka H, et al	総合科(内科)	壊死性筋膜炎, 敗血症性肺塞栓症を合併したLemierre症候群の1例	日本内科学会雑誌. 10/01/2017; 105(1): 99-104	Case report
88	Mamoru Ayusawa	小児科	学校管理下突然死の現状と課題 救急蘇生・AED普及に伴うパラダイムシフト	日本小児循環器学会雑誌 (2016.11)32巻6号 Page485-497	Review
89	Mamoru Ayusawa	小児科	小児と成人の血管炎 川崎病	日大医学雑誌 (2016.08)75巻4号 Page188-193	Review
90	Hiroshi Kamiyama	小児科	心筋炎から学ぶ 小児循環器分野を学ぶ医師のアウトカムを中心に	日本小児循環器学会雑誌 (2016.09) 32巻5号 Page365-378	Review
91	Noto T, Fukuda A, Nakasaki.K et al.	小児科	Extended-spectrum β -lactamase産生大腸菌による感染性頭血腫の1例	小児感染免疫 (2016.8) ;28:105-9	Case report
92	Sasagawa A, Takahashi M, Sato N. et al.	小児科	発達障がい児のソーシャルスキルトレーニングにおけるレスポンスコスト法の効果の検討.	子どもの心とからだ. (2016.11) ;25:256-61	Original Article
93	Konno C, Suzuki M, Furihata R, et al.	精神神経科	一般人口におけるうつ病の心理社会的な要因に関する疫学的研究	日大医学雑誌. 2016 Apr; 75: 81-87	Original Article
94	Nagai K, Suzuki M, Kanamori T, et al.	精神神経科	出産後に“spike-wave stupor”を呈した1例	精神医学. 2016 Nov; 58: 959-963	Case report

95	Uchiyama M	精神神経科	睡眠衛生 新12箇条を中心に	Advances in Aging and Health Research. 2017 Mar; 2016: 61-69	Review
96	Uchiyama M, Sakamoto S, Shirai K, et al.	精神神経科	入眠困難を伴う不眠症患者に対するラメルテオンの長期使用時の安全性および有効性の検討 ロゼレム8mg錠特定使用成績調査結果	Geriatric Medicine. 2016 Nov; 54(11): 1159-1177	Original Article
97	Uchiyama M	精神神経科	不眠症薬物治療の進歩	睡眠医療. 2016 Sep; 10(3): 413-423	Review
98	Uchiyama M, Shirai K	精神神経科	入眠困難を伴う不眠症患者に対するラメルテオンの安全性および有効性の検討 使用成績調査の追加解析に関する報告	Progress in Medicine. 2016 Oct; 36(10): 1397-1407	Original Article
99	Takahiro E, Yumi O, Koremasa H, et al.	皮膚科	粉瘤との鑑別を要した耳垂のMerkel細胞ポリオーマウイルス陽性Merkel細胞癌の1例.	臨床皮膚科. 2016 May; 70(6): 427-430	Case report
100	Nobuyuki N, Yui S, Madoka I, et al.	皮膚科	高齢者に生じた皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫.	皮膚病診療. 2016 Aug; 38(8): 829-832	Case report
101	Momoka O, Daisuke M, Itsuho F, et al.	皮膚科	乳癌に対する化学療法の経過中に汎発性帯状疱疹を発症した1例.	皮膚科の臨床. 2016 Oct; 58(11): 1627-1630	Case report
102	Koremasa Hayama	皮膚科	慢性蕁麻疹における自己抗体.	アレルギーの臨床. 2017 Jan; 37(1): 53-57	Others
103	Kyoko Y, Mikako A, Yasuji I, et al.	皮膚科	皮疹を契機に診断し得た小児皮膚筋炎の1例.	皮膚科の臨床. 2017 Feb; 59(2):173-176	Case report
104	Azusa H, Daisuke M, Yosikazu I, et al.	皮膚科	全身性エリテマトーデスの兄弟例.	皮膚科の臨床. 2017 Feb; 59(2): 177-181	Case report
105	Takahiro E, Keiichi K, Takako H, et al.	皮膚科	網状分層植皮による下腿潰瘍治療に局所陰圧閉鎖療法PICO®を応用した1例.	臨床皮膚科. 2017 Feb; 71(2): 177-180	Case report
106	Tadashi Terui	皮膚科	乾癬性関節炎の臨床像(case06) SAPHO症候群.	Visual Dermatology. 2016 Apr; 15(5): 468-469	Others
107	Satoshi I, Koremasa H, Tadashi T	皮膚科	ニボルマブの作用機序、効果、副作用と日本大学医学部附属板橋病院皮膚科での使用経験.	日大医学雑誌. 2016 Aug; 75(4): 156-160	Others
108	Hideki Fujita	皮膚科	皮膚と炎症～皮膚はどのようにして炎症を制御するのか.	WOC Nursing. 2016 Sep; 4(9): 37-42	Others
109	Hideki Fujita	皮膚科	特集 アトピー性皮膚炎の治療戦略 難治性病変に対する光線療法	アレルギーの臨床. 2016 Dec; 36(12): 1142-1145	Others
110	Hideki F, Yuji I, Minoru H, et al.	皮膚科	新・皮膚科セミナー 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン 創傷一般～ガイドライン改定版の概要.	日皮膚科学会雑誌. 2017 Jan; 127(1): 1-7	Review
111	Tadashi Terui	皮膚科	乾癬性関節炎の併存症と予後.	リウマチ科. 2017 Feb; 57(2): 142-145	Others
112	Hideki Fujita	皮膚科	扁平苔癬.	皮膚科研修ノート. 編集: 佐藤伸一, 藤本 学 診断と治療社, 東京, 2016 Apr; 368-369	Others

113	Tadashi Terui	皮膚科	慢性色素性紫斑.	皮膚疾患 最新の治療 2017-2018. 編集: 渡辺晋一, 古川福実 南江堂, 東京, 2017 Jan; 71	Others
114	Sezai A, Shiono M	心臓外科	人工弁(機械弁、生体弁)の動向 1、機械弁の動向	心臓. 2016 June;48(6):584-589	Review
115	Tanaka M	心臓外科	急性非代償性心不全における利尿反応性	Fluid Management Renaissance. 2016 Aug;6(3):269-270	Review
116	Maeda H, Hattori T, Nakamura T, et al.	血管外科	深部静脈血栓症の血管内治療の実態とその意義	血管外科. 2016 Nov;35(1):20-23	Original Article
117	Sezai A	心臓外科	循環器診療におけるRAAS測定の重要性〜いかに臓器保護を予防するか〜	東京都医学検査. 2016 Dec;44(4):267-269	Review
118	Soejima K, Nakazawa H	形成外科	植皮・皮弁術における縫合法	PEPARS. 2017年3月 123:117-124	Review
119	Kikuchi Y, Nakazawa H	形成外科	形成外科における縫合材料	PEPARS. 2017年3月 123:6-15	Review
120	Soejima K	形成外科	ラグビーにおける外傷・障害 予防・評価・治療・復帰 顔面の外傷・障害	臨床スポーツ医学. 2017年2月 34(2):152-157	Review
121	Kashimura T, Nakazawa H	形成外科	熱傷における植皮術	PEPARS. 2016年12月 120:21-28	Review
122	Kikuchi Y, Soejima K, Sakurai H, et al.	形成外科	左右非対称性胸郭変形に対するNuss法	小児外科. 2016年8月 48(8):787-793	Review
123	Soejima K, Kashimura T, Nakazawa H, et al.	形成外科	皮膚再建の再生医療	日大医学雑誌 2016年4月 75(2):74-80	Review
124	Terada Y, Kashimura T, Fukuda Y, et al.	形成外科	術後出血に難渋した血友病患者の頬骨骨折治療	創傷 2016年4月 7(2):105-109	Original Article
125	Soejima K, Nakazawa H	形成外科	特集 顔面骨骨折の治療戦略 顔面骨骨折の低侵襲治療	PEPARS 2016年4月 112:80-87	Review
126	Yahagi Y, Matsumoto K, Uei H, et al.	整形外科	造影MRIT1脂肪抑制にて早期に信号変化を認めた脊髄梗塞の1例	関東整形災害外科学会雑誌.2016 Dec; 47(6): 367-370	Case report
127	Oyama T, Suzuki G, Hosaka K, et al.	整形外科	UKAにおける脛骨後傾角が術後成績に与える影響	関東整形災害外科学会雑誌. 2017 Feb; 48(1):30-32	Original Article
128	Sato K, Ryu K, Suzuki T, et al.	整形外科	変形性膝関節症を伴う脛骨高原骨折に対し、一期的にORIFとTKAを施行した2例	東日本整形災害外科学会雑誌. 2017 Mar; 29(1): 119-122	Case report
129	Uei H, Tokuhashi Y, Oshima M, et al.	整形外科	除圧範囲骨化巣後彎角の基準に従った多椎胸椎後縦靭帯骨化症に対する後方除圧固定術の有効性	Journal of Spine Research. 2016 Sep; 7(9): 1356-1360	Original Article
130	Shirata T, Otaki M, Yokoi T, et al.	整形外科	THA術後の寛骨臼骨折に対しAugmentによりRevision THAを施行した1例	日本人工関節学会誌. 2016 Dec; 46: 103-104	Case report

131	Yoshida Y, Okamura Y, Akita M, et al.	整形外科	人工関節の長期成績 長期経過観察からみた腫瘍型人工関節の有用性	日本整形外科学会雑誌. 2016 Nov; 90(11) :923-927	Original Article
132	Matsumoto K, Hoshino M, Matsuzaki H, et al.	整形外科	胸腰椎移行部の外傷性後彎症に対する矯正固定術の検討 局所で良好なGlobal Sagittal Balanceの獲得	Journal of Spine Research. 2016 Oct; 7(10): 1447-1450	Original Article
133	Yoshida A, Kato Y, Shirata T, et al.	整形外科	関節症性変化を伴う両恒久性膝蓋骨脱臼の1例	JOSKAS. 2016 Jun; 41(3): 996-1001	Case report
134	Oyama T, Watanabe M, Ryu J, et al.	整形外科	ステロイド性膝関節部顆部骨壊死に対する人工膝関節置換術の1例	東日本整形災害外科学会雑誌. 2016 Jun; 28(2): 171-175	Case report
135	Kobayashi.O, Sugita.K, Nakao.T, et al.	産婦人科	卵巣癌の増大が原因で尿路感染由来の敗血症性のショックを反復した1例	東京産科婦人科学会誌 (2186-0599).2016.Jul;65巻3 号:558-563	Case report
136	Kono.A, Nakamura.A, Nakayama.T, et al.	産婦人科	頸管裂傷による出血性ショックの治療後、産後1か月時に癒着胎盤より再度出血を生じた1例	東京産科婦人科学会誌 (2186-0599)2016.Oct;65巻4 号:685-689	Case report
137	Hayashi.C	産婦人科	一步進んだ胎児超音波—具体的な抽出法/測定法を教えます—超音波断層法 肝脾腫	周産期医学 (0386- 9881).2016.May;46巻5号: 567-568	Review
138	Takada.S, Yamamoto.T	産婦人科	帝王切開術式の工夫 きれいな創傷治癒を目指して	周産期医学 (0386- 9881).2016.Sep;46巻9号: 1081-1084	Review
139	Kawana.K	産婦人科	性感染症 尖圭コンジローマ	産婦人科の実際 (0558- 4728).2016.Dec;65巻13号: 1763-1767	Review
140	Kawana.K	産婦人科	ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの現状	感染・炎症・免疫 (0387- 1010).2017Jan;46巻4号: 274-281	Review
141	Kishino A, ShigiharaS Oshima T et al	耳鼻咽喉科	鼻腔に発生した多形腺腫例	耳鼻臨床102(9) :621- 627.Sep;2016.	Case report
142	Noriko Inada, Kyohei Takahashi, Narihiro Ishida, et al.	眼科	アレルギー性結膜炎における自覚症状評価を目的としたFacial Imaging Scale(FISA)の検討.	あたらしい眼科33(2):301- 308,2016	Original Article
143	Yukiko Shiraki, Jun Shoji, Noriko Inada	眼科	単純ヘルペスウイルス角膜炎が疑われた乳児例の検討.	あたらしい眼科33(5):711- 713,2016	Case report
144	Mami Nomura, Noriko Inada, Jun Shoji	眼科	アレルギー性結膜炎疾患における涙液中amphiregulin値の検討.	あたらしい眼科33(8):1213- 1217,2016	Original Article
145	Mami Nomura, Motohiro Nakashima, Hirotugu Hanazaki, et al.	眼科	レーザー治療で再発し囊腫壁切除白内障同時手術で治療した原発性虹彩囊腫.	眼科58(4):489-493,2016	Case report
146	Hirotugu Hanazaki, Tohru Sakimoto	眼科	前房水定量PCRで低ウイルス量を示したサイトメガロウイルス角膜炎の1例.	眼科58(7):781-786,2016	Case report
147	hiroshi Aso, Yumi Kamura, Hirotugu Hanazaki, et al.	眼科	動物病院勤務者に発症した視神経網膜炎の1例.	臨床眼科70(3):355-358,2016	Case report
148	Takako Ohnishi, Kei Yoshida, Natsuko Harada, et al.	眼科	涙点に嚢胞様隆起を認めた1例.	臨床眼科70(7):1107- 1109,2016	Case report

149	Mari Kobayashi, Jun Shoji, Noriko Inada	眼科	春季カタルの結膜表面におけるEGF受容体発現.	臨床眼科70(9):1437-1442,2016	Original Article
150	Satoru Yamagami, Masahiro Kitamoto	眼科	白内障・屈折手術の論点 角膜内皮移植と白内障同時手術の比較 主に二期手術をすすめる立場から.	IOL & RS 30(4):571-57, 2016	Review
151	Yoji Kashima	眼科	内科診断の道しるべ-その症候、どう診る どう考える 頭頸部 瞳孔異常.	Medicina53(4):174-177,2016	Review
152	Jun Shoji	眼科	特集 眼瞼・結膜アレルギー 知っておくべき基本事項 結膜の構造とバリア機能 経結膜感作.	あたらしい眼科33(3):343-351,2016	Review
153	Jun Shoji	眼科	特集アレルギー疾患治療の最近の進歩と今後の動向 V眼科.	アレルギー・免疫23(10):1378-1389,2016	Review
154	Satoru Yamagami	眼科	【角膜移植のアップデート】角膜再生角膜移植に置き換わるか?共存か?	眼科手術29(3):365-369,2016	Review
155	Tohru Sakimoto	眼科	ドライアイは炎症性疾患なのか? ドライアイの近年の考え方と絡めて-.	日大医誌75(1):52-53,2016	Review
156	Noriko Inada	眼科	春季カタルに対するシクロスポリン点眼治療.	アレルギーの臨床36(8):739-742,2016	Review
157	Jun Shoji	眼科	眼アレルギー検査(特集②眼科アレルギー疾患治療の今).	眼科グラフィック 5(1):34-42, 2016	Review
158	Noriko Inada	眼科	細菌性結膜炎(特集②結膜疾患の診かた).	眼科グラフィック 5(2):134-138, 2016	Review
159	Jun Shoji	眼科	総説 点眼薬関連アレルギー.	日本の眼科87(7):849-853,2016	Review
160	Noriko Inada	眼科	わかりやすい臨床講座 点眼薬アレルギーと接触眼瞼皮膚炎.	日本の眼科87(7):855-858,2016	Review
161	Masuda S	病理診断科	【乳腺腫瘍の組織分類はどうあるべきか?】浸潤性乳管癌の組織形態は何を現しているか?	診断病理.2016.Apr;33(2):119-121,	Review
162	Masuda S	病理診断科	【癌の分子病理学 病理診断から治療標的探索まで】(第3部)癌の分子病理診断の現状と将来 乳癌.	病理と臨床. 臨時増刊号. 2016 Apr; 34 :272-279.	Review
163	Masuda S	病理診断科	悪性腫瘍に対する分子標的治療薬現状と今後(第4回) 乳がん領域のコンパニオン診断.	病理と臨床. 2016.Jul ;34(7):753-758,	Review
164	Masuda S	病理診断科	【乳癌研究:最近のトピックス】新しいHER2遺伝子/蛋白検出法.	細胞. 2016.Jul ;48(7):314-317,	Review
165	Ohni S, Hemmi A, Yamada T et al.	病理診断科	Glomangiomas (diffuse glomus tumor)の一例.	診断病理. 2016.Oct;33(1):86-90	Case report

計165件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 臨床研究倫理審査委員会標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究に関する標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究における重篤な有害事象の取扱いに関する標準業務手順書 ・ 人体から取得された試料及び情報等の保管に関する標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○有・無
・ 規定の主な内容 ・ 日本大学利益相反マネジメント内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 11 回
・ 研修の主な内容 (1) 臨床研究・治験セミナー (1回) 講演内容：「患者さんの臨床研究や治験に対する想いと望み」 (2) 臨床研究倫理審査委員会委員講習 (10回) 講義内容： CITI Japan e ラーニングプログラムを含む e-learning 「研究における個人に関わる情報の取り扱い、研究におけるインフォームド・コンセント、生命医科学研究者のための社会科学・行動科学」他、外部研修会の伝達講習	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

高度医療に対する研修を実行するため、医学部の学系・分野と協力しながら専門医取得のための後期研修プログラムを各診療科で作成している。内科，外科については，サブスペシャリティ領域ごとに専門医を取得できるように，いくつかのプログラムを選択できるようなシステムを構築している。内科については，初期臨床研修2年修了後，3年目に内科共通プログラムを1年行い，その後，それぞれの希望のサブスペシャリティ領域の専門医取得ができるようにしている。外科も同様に，外科専門医を取得後，サブスペシャリティ領域の専門医を取得できるようなローテートを構築している。

また，歯科の研修についても初期研修（1年）修了後，大学院への進学及び後期研修に向けての専門領域についての研修も可能としている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	223.3人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
相馬 正義	内科	部長	38年	
増田 英樹	外科	部長	40年	
橋本 修	呼吸器内科	部長	40年	
武井 正美	血液内科	部長	36年	
阿部 雅紀	腎臓・内分泌内科	部長	20年	
森山 光彦	消化器・肝臓内科	部長	36年	
石原 寿光	糖尿病・代謝内科	部長	29年	
亀井 聡	神経内科	部長	37年	
平山 篤志	循環器内科	部長	40年	
内山 真	精神科	部長	37年	
高橋 昌里	小児内科，新生児内科	部長	40年	
照井 正	皮膚科	部長	35年	
高山 忠利	消化器外科	部長	37年	
田中 正史	心臓外科	部長	21年	
櫻井 裕幸	呼吸器外科	部長	23年	
中山 智洋	臨床検査科	部長	29年	
越永 従道	小児外科	部長	34年	
櫻井 健一	乳腺・内分泌外科	部長	24年	
仲沢 弘明	形成外科	部長	34年	
吉野 篤緒	脳神経外科	部長	31年	
徳橋 泰明	整形外科	部長	37年	
川名 敬	産婦人科	部長	24年	
高橋 悟	泌尿器科	部長	32年	
山上 聡	眼科	部長	29年	
大島 猛史	耳鼻咽喉科	部長	31年	

岡田 真広	放射線科	部長	22年	
鈴木 孝浩	麻酔科	部長	28年	
杉谷 雅彦	病理診断科	部長	37年	
木下 浩作	救急科	部長	30年	
北野 尚孝	歯科口腔外科	部長	17年	
増田 しのぶ	腫瘍病理学	科長	32年	
羽尾 裕之	人体病理学	係員	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>① 医療安全研修会（ワークショップ）</p> <p>・チームステップスの技法を用いてチーム医療を学ぶ</p> <p>① セーフティマネジャー講習会</p> <p>・医療安全管理 ー地域基幹病院で考えたことと大学附属病院の今後の方向性ー</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>① 平成28年12月1日・年1回実施</p> <p>② 平成28年6月14日・年1回実施</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①16名 ②146名</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>① 個人情報保護と守秘義務について</p> <p>② 特定機能病院の承認要件の見直しについて</p> <p>③ 収入と支出の考え方</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>① 平成28年6月6日（月），8日（水），9日（木）・3回実施</p> <p>② 平成28年11月10日（木），11日（金），14日（月）・3回実施</p> <p>③ 平成28年11月25日（金）・1回実施</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①2,502名 ②2,496名 ③64名</p>

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 平山 篤志
管理担当者氏名	事務長 高橋 錦吾, 庶務課 大久保 貞治, 医事課長 秋葉 宏司, 病歴課長 秋葉 宏司, 医学部庶務課長 長倉 啓貴 医薬品安全管理責任者 吉田 善一, 医療機器安全管理責任者 坂西 和良

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	事項 規則第二十一条の三第二項に掲げる	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	病歴課, 医療情報課
		処方せん	病歴課, 医療情報課
		手術記録	病歴課, 医療情報課
		看護記録	病歴課, 医療情報課
		検査所見記録	病歴課, 医療情報課
		エックス線写真	病歴課, 医療情報課
		紹介状	病歴課, 医療情報課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴課, 医療情報課
			日別, 年度別, 種類別に管理している。 診療録については, 「日本大学医学部附属板橋病院・病歴管理内規」において, 保管場所を「病歴課内, その他医学部内指定場所で保管する」とした上で, 「定められた保管場所以外に持ち出さないこと」としている。 また, 官公庁からの依頼については, 病院長の許可による。
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十一条の三第三項に	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 病院庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課 当該診療科
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課 当該診療科
		高度の医療の研修の実績	当該診療科
		閲覧実績	病歴課, 庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課, 庶務課
	に掲げる事項 規則第一条の十一第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 庶務課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染予防対策室
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部 庶務課
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	中央放射線部 臨床工学技士室 庶務課
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室
第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室	
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室 庶務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室 庶務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部 庶務課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	病歴課 庶務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴課 庶務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床研究推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	臨床研究推進センター
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室 庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 庶務課 医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室 庶務課
職員研修の実施状況	医療安全管理室		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	事務長 高橋 錦吾
閲覧担当者氏名	庶務課長 大久保 貞治, 会計課長 葦澤 雅幸, 医事課長 秋葉 宏司, 病歴課長 秋葉 宏司, 資材課長 野本 浩嗣, 医学部庶務課長 長倉 啓貴
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・会議室
閲覧の手続の概要 公文書で病院長宛に依頼文書・照会をいただき, その諾否を執行部会が判断する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	5件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 3件
	地方公共団体	延 2件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び安全管理指針）（平成12年3月制定，平成29年3月改定）</p> <p>② 安全管理体制組織運営</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，平成25年10月改定）・ セーフティマネジャーに関する規則（平成16年1月制定，平成29年4月改定）・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定，平成26年4月改定）・ セーフティマネジャーによる事例検討会に関する規約（平成25年3月制定） <p>③ 安全管理体制確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定，平成29年7月改定）・ 特別症例検討委員会規則（平成12年5月制定，平成27年6月改定） <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none">・ インシデント・アクシデント不具合事象（合併症）報告運用規則（平成12年5月制定，平成29年7月改定）・ インシデント・アクシデントレポート不具合事象（合併症）報告ルート（平成12年5月制定，平成27年8月改定）・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定，平成27年8月改定） <p>⑤ 患者からの相談に応じる体制</p> <ul style="list-style-type: none">・ 患者相談窓口運用要綱（平成15年10月制定，平成25年8月改定）・ 患者相談窓口フローチャート（平成15年10月制定，平成25年8月改定） <p>⑥ 患者への適正な説明・内部通報窓口の設置</p> <ul style="list-style-type: none">・ インフォームドコンセントに関する内規（平成28年9月制定）・ インフォームドコンセントマニュアル（平成28年9月制定，平成29年7月改定）・ 内部通報者保護に関する内規（平成28年9月制定）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>「医療安全管理委員会」は副病院長（医療安全管理責任者）を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部）・事務部門等から選出された委員（セーフティマネジャー等）により構成されている。定例で月1回の会議を開催し、当病院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年2回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。</p> <p>同委員会は薬剤管理委員会と医療機器・放射線機器管理委員会を統括し、連携を図るとともに、下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施</p>	

- ① 平成28年6月6日（月）， 8日（水）， 9日（木）
第1回医療安全講習会 「平成27年度医療安全報告」 他
- ② 平成28年11月10日（木）， 11日（金）， 14日（月）
第2回医療安全講習会 「事故事例報告について」 他

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ 有 ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ① インシデント・アクシデントレポートにより，速やかに報告を行う体制を整備している。平成18年度からオンライン化を図った。
- ② 提出されたインシデントレポート，外部のレポート，現場からの問題提起，インターネットやメディファックスなどから事例を収集・把握し情報を得ている。また，上記情報を踏まえて医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い，レベルの高い事故事例についてはセーフティマネジャー事例検討会に付託し詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。
- ③ 24時間いつでも提出可能にするために，医療安全管理室にポストを設置している。
- ④ 医療安全管理室員の連携（情報交換）をとるために，週1回の医療安全管理室員連絡会議を開催し，情報の共有化を図り，分析・予防対策等の検討を行っている。
- ⑤ 専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い，報告内容の確認及びセーフティマネジャーとの連携をとっている。
- ⑥ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には，回覧で読んだことを証明してもらうため，確認票も添付し，そこにサインさせ，医療安全管理室で確認票を収集・管理している。
- ⑦ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合，当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者を招聘し「特別症例検討委員会」を開催し，今後再発防止策を検討・実施している。
- ⑧ 医療安全管理室で全死亡症例を把握している。電子カルテ等の内容を確認し，医療安全管理室員連絡会議で検証を行っている。重大事例や早急に改善策が必要となる事例においては，該当事例について，特別症例検討委員会で検討を行い，改善策を立案する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無															
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容： 基本理念、基本方針、専従者の配置、感染防止対策委員会の設置、鋭利な器材の取扱い、職員の研修、感染症発生時の報告、感染症発生時の対策、閲覧について、連絡先、その他																
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回															
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内の感染症発生状況の報告針刺し切創・皮膚粘膜曝露件数の報告抗MRSA薬使用状況及び抗菌薬使用状況の報告菌検出状況の報告感染防止対策講習会の準備（企画）と開催、参加状況の把握感染防止対策マニュアルの改訂医療安全ポケットマニュアル第11版の作成、第12版の準備標準予防策の手指衛生行動の評価：手洗いラウンド感染防止対策加算にかかわる活動の報告ワクチン接種について																
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回															
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<table border="1" data-bbox="204 1120 1364 1444"><thead><tr><th data-bbox="204 1120 625 1153">開催日</th><th data-bbox="625 1120 1364 1153">テーマ</th></tr></thead><tbody><tr><td data-bbox="204 1153 625 1182">6月29日 (水) 15:00-</td><td data-bbox="625 1153 1364 1182" rowspan="5">前期<ul style="list-style-type: none">薬剤耐性菌の脅威に備えて 当院における耐性菌検出状況感染防止対策クイズ</td></tr><tr><td data-bbox="204 1182 625 1211">6月30日 (木) 16:00-</td></tr><tr><td data-bbox="204 1211 625 1240">7月4日 (月) 16:15-</td></tr><tr><td data-bbox="204 1240 625 1270">7月5日 (火) 15:00-</td></tr><tr><td data-bbox="204 1270 625 1299">7月6日 (水) 15:00-</td></tr><tr><td data-bbox="204 1299 625 1328">12月5日 (月) 15:30-</td><td data-bbox="625 1299 1364 1328" rowspan="6">後期<ul style="list-style-type: none">インフルエンザ対策医療廃棄物の分別感染防止対策クイズ</td></tr><tr><td data-bbox="204 1328 625 1357">12月6日 (火) 16:15-</td></tr><tr><td data-bbox="204 1357 625 1386">12月13日 (火) 16:15-</td></tr><tr><td data-bbox="204 1386 625 1415">12月14日 (水) 15:15-</td></tr><tr><td data-bbox="204 1415 625 1444">12月16日 (金) 15:30-</td></tr><tr><td data-bbox="204 1444 625 1451"></td></tr></tbody></table>		開催日	テーマ	6月29日 (水) 15:00-	前期 <ul style="list-style-type: none">薬剤耐性菌の脅威に備えて 当院における耐性菌検出状況感染防止対策クイズ	6月30日 (木) 16:00-	7月4日 (月) 16:15-	7月5日 (火) 15:00-	7月6日 (水) 15:00-	12月5日 (月) 15:30-	後期 <ul style="list-style-type: none">インフルエンザ対策医療廃棄物の分別感染防止対策クイズ	12月6日 (火) 16:15-	12月13日 (火) 16:15-	12月14日 (水) 15:15-	12月16日 (金) 15:30-	
開催日	テーマ															
6月29日 (水) 15:00-	前期 <ul style="list-style-type: none">薬剤耐性菌の脅威に備えて 当院における耐性菌検出状況感染防止対策クイズ															
6月30日 (木) 16:00-																
7月4日 (月) 16:15-																
7月5日 (火) 15:00-																
7月6日 (水) 15:00-																
12月5日 (月) 15:30-	後期 <ul style="list-style-type: none">インフルエンザ対策医療廃棄物の分別感染防止対策クイズ															
12月6日 (火) 16:15-																
12月13日 (火) 16:15-																
12月14日 (水) 15:15-																
12月16日 (金) 15:30-																
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況																
<ul style="list-style-type: none">病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">感染症発症時の報告体制<ul style="list-style-type: none">感染症発生時、細菌検査室から主治医へ、同時に感染予防対策室の専従感染管理者へ報告があり、専従感染管理者は現場へ直ちにラウンドし情報の共有・感染対策の強化について検討と確認を行っている。感染症法による感染症の届出は電子カルテより様式を出力でき、速やかな報告書の提出が可能となった。提出が遅延し行政より注意を受けることはなかった。ICTによる院内ラウンド<ul style="list-style-type: none">診療報酬の算定方法の一部改訂に伴う実施上の留意事項：(3/31付疑義解釈資料の送付をうけ) 4/4より医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師で、毎週 1 回病棟・外来・他部署の院内巡回を実施した。医師、看護師、薬剤師、検査技師による抗MRSA薬及び広域抗菌薬適正使用検討会・ラウンドを週 2 回実施し耐性菌感染症対策に努めた。標準予防策と経路別感染予防の遵守の状況を毎週行なうラウンドで検証している。手指衛生の量的・質的向上に向けた取り組み																

- ・手指衛生強化月間（ポスター掲示）を設け、各部署で手指衛生の遵守率向上の啓蒙を行っている。
 - ・ICLN活動として、自部署のスタッフのブラックライトを用いて手指衛生評価の実施（チェックリストによる手指衛生手順・タイミングの評価）。各部署の手指衛生行動の評価：手指消毒剤の使用量測定を行っている。
 - ・専従感染管理者は院内における手指消毒剤の払い出し量のサーベイランスの実施・部署へフィードバックを行っている。
 - ・手指消毒剤の使用量の目標値へ達成した部署は28部署中11部署となり、遵守率は向上している。病院全体のAHR払い出し量は21.9L/1000床/日となった。
 - ・全病棟で手指衛生の直接観察法を実施し「5つのタイミング」の何が不十分であるかを分析し改善へと繋げた。
- 4) 院内感染サーベイランス
- ・CAUTI・CLABSI・VAPサーベイランスを全部署で実施、毎月の結果をフィードバックし看護ケアの質向上へと繋げている。
- 5) 職員研修
- ・感染防止対策講習会の内容の充実と参加率向上への取り組みに努め、全職種100%参加を達成することができた。
- 6) その他
- ・清掃業者・施設課の定期カンファレンスに専従感染管理者が参加し意見交換を行い、さらに清掃ラウンド(感染予防対策室・資材課・清掃マネージャー)を年3回実施し、環境整備の質向上へと繋がった。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： ○処方中止オーダーの注意点と院内製剤オーダーの変更について ○医薬品の医療法改正と新向精神薬	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 薬剤管理委員会委員にて、各部門を定期的に巡視し手順書に沿った確認を行い必要であれば改善点を指摘する。また、その後改善されているかを確認している。薬剤部としても、定期的に医薬品管理関係をチェックし、報告書を作成し医薬品安全管理責任者から医療安全管理室へ報告している。また、薬剤管理委員及び医薬品安全管理責任者は薬剤関係のインシデントレポートを確認し、必要な場合手順書改訂などを薬剤管理委員会にて検討し、医療安全管理委員会にて承認する。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○添付文書以外の医薬品に関する適応外使用の適否は薬剤部(医薬品情報室)が薬学的判断を行い医薬品安全管理責任者に報告し最終的に病院長に報告している。また当院で使用したことのない医薬品で承認または認証を受けていないものに関しては高難度新規医療技術等に対する安全管理体制に従い、未承認新規医薬品担当部門にて検討し、病院長に報告している。 ○電子カルテ内に手順書を収録するとともに、適宜、医薬品安全性情報、新規採用医薬品等の情報、重大な副作用等の改訂を電子カルテ内にも収載し周知徹底している。 ○コデイン類含有製剤における「使用上の注意」「改訂」などの安全注意情報を周知し、紙媒体でもお知らせをし、情報確認票への印(サイン)を義務付け回収し、周知を徹底している。その他、病棟薬剤師は各種カンファレンスに参加し、医師・看護師に医薬品情報を提供している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(臨床工学技士室)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療機器の有用性・安全性に関する事項・ 医療機器の使用方法に関する事項・ 医療機器の保守点検に関する事項・ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 <p>(中央放射線部)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療機器の有効性・安全性に関する事項・ 医療機器の使用法に関する事項・ 医療機器の保守点検に関する事項・ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項・ 新しい医療機器の導入時の研修・ 医療機器の使用方法に関わる放射線治療のリスクマネジメント・ 医療機器の非常時の処置方法	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>(臨床工学技士室)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保守点検の計画・実施計画表作成・ 定期点検計画の策定を行い、3ヵ月ごとに見直し、委員会にて承認を得ている。・ 定期点検 (各医療機器のマニュアルに沿った期間で行う。人工心肺・人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ等、一部の機器は臨床工学技士が行い、その他の機器はメーカーに依頼している。)・ 日常点検 (始業点検・使用中・使用后・修理後) の実施及び記録。 <p>(中央放射線部)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保守点検の計画・実施表作成・ 定期点検 (各医療機器のマニュアルに沿った期間で行う)・ 日常点検 (始業点検、使用后、修理後、使用中等) の実施及び記録・ 高エネルギー放射線発生装置 : 定期点検、年4回 メーカーに依頼・ 診療用放射線照射装置 (RALS装置) : 定期点検、年2回 メーカーに依頼	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(臨床工学技士室)</p> <ul style="list-style-type: none">・ PMDAやメーカーから情報を得ている。・ 重要な情報に対しては、医療安全管理室に情報を提供し医療安全情報として各病棟に配布している。	

(中央放射線部)

- ・ メーカーからの安全使用に関する情報通知内容を関係職員に回覧し、情報の共有化を図っている。また、安全情報をファイルし、適宜閲覧可能とする。
- ・ メーカーからの改修・注意事項に則り適宜改修を行っている。
- ・ 治療計画装置の安全使用を図るために、保守契約項目にソフトのバージョンアップを含め、常に最新のソフトを使用している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師) 歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年4月1日付けで副病院長(管理担当)を医療安全管理責任者として配置し、医療安全管理室長を兼務している。医療安全管理責任者は病院の医療安全管理全般を統括し、医療安全管理委員会の委員長を務めるとともに、薬剤管理委員会(委員長:医薬品安全管理責任者)及び医療機器・放射線機器管理委員会(委員長:医療機器安全管理責任者)から各委員会で討議された内容についての報告を受け、適宜、監督・指導を行い、適正な医療安全管理体制を構築している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(6名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○薬剤師が月 1 回以上、医薬品に関する巡視を行い、薬剤管理、薬剤管理委員会及び医薬品安全管理責任者に報告している。また薬剤管理委員会の委員が病院各部門をラウンドし、手順書に沿ったチェックを行い、改善が必要であれば指摘する。指摘した場合は、近日中に改善されているか再度確認業務を行う。</p> <p>○薬剤管理委員及び医薬品安全管理責任者は薬剤関係のインシデントレポートを確認し、未投薬等の原因を検証し必要な場合、手順書改訂など薬剤管理委員会を通して検討する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○添付文書以外の医薬品に関する適応外使用の適否は薬剤部(医薬品情報室)が薬学的判断を行い医薬品安全管理責任者に報告し最終的に病院長に報告している。また当院で使用したことのない医薬品で承認または認証を受けていないものに関しては高難度新規医療技術等に対する安全管理体制に従い、未承認新規医薬品担当部門にて検討し、病院長に報告している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) 無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：消化器肝臓内科 ， 職種 医師) (所属： 新生児病科 ， 職種 医師)</p> <p>(所属：医療安全管理室 ， 職種 薬剤師) (所属： 薬剤部 ， 職種 薬剤師)</p> <p>(所属：臨床研究推進センター ， 職種 薬剤師) (所属： 臨床研究推進センター ， 職種 薬剤師)</p> <p>(所属：臨床研究推進センター ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 IC責任者が確認の結果、適切でない事例を認めた場合は、マニュアルに従い実施するよう指導を行うとともに、病院各部署に注意喚起や研修会等を通じて適正な説明の実施に向けた啓蒙に努めている。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録責任者が診療録等の記載内容が十分でない事例を認めた際は、診療録記載に関するマニュアルに基づき記載するよう必要な指導を行うとともに、該当事例を通じて病院各部署に注意喚起を行い、研修会等を通じて適正な記載の実施について教育している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（6）名、専任（ ）名、兼任（9）名 うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医療安全に係る関係部署への連絡調整 ② 事故等の原因究明の実施確認及び指導 ③ 事故発生時における、患者・家族への説明等の対応状況の確認及び指導 ④ 事故等に関する診療録・看護記録等の記載の確認及び指導 ⑤ 医療安全研修会の運営、実施内容の記録 ⑥ 医療事故防止マニュアルの職員への周知及び評価 ⑦ 患者相談窓口の相談情報の把握及び医療安全対策への活用 ⑧ 医療安全管理委員会の資料・議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。 ⑨ ヒヤリ・ハット通信及び医療安全注意報の発行、職員への周知及び評価 ⑩ その他医療安全対策の推進 ⑪ 診療状況（コードブルー発生件数、RRS発生件数、内視鏡治療合併症発生率、術後死亡（30日 	

以内) 件数, 手術における血栓予防対策, 疑義照会件数, CVC 合併症発生件数) のモニタリングを実施し医療安全管理委員会で報告の上, 検証を行っている。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には, 専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に, 従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)

・活動の主な内容:

「高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する業務マニュアル」を制定し, 臨床研究推進センター内に高難度新規医療技術担当部門を設置した。担当部門長は「高難度新規医療技術評価委員会」を開催し, その適否を評価するとともに, 当該高難度新規医療技術が適正に提供されていることを継続的に確認する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め, 使用の適否等を決定する部門の状況

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め, 使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に, 従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)

・活動の主な内容:

「未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する業務マニュアル」を制定し, 臨床研修推進センター内に未承認新規医薬品担当部門, 未承認新規高度管理医療機器担当部門を設置した。担当部門長は「未承認新規医薬品評価委員会」, 「未承認新規高度管理医療機器評価委員会」を開催し, その適否を評価するとともに, 当該未承認医薬品, 未承認高度管理医療機器が適正に提供されていることを継続的に確認する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 1 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>学校法人日本大学におけるガバナンス強化を目的に板橋病院における医療安全管理体制及び業務遂行に関する監査を目的として「日本大学医学部附属板橋病院医療安全監査委員会設置要項」に基づく医療安全監査委員会を設置した。当該委員会は板橋病院の医療安全管理，感染防止，医薬品安全管理，医療機器安全管理等に係る体制整備及び業務遂行状況を監査し，監査結果は開設者に報告及びホームページを通じて外部に公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上で公表している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山科 章	東京医科大学循環器内科教授・医師	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する学外者	有・無	1
各務 武希	光和総合法律事務所・弁護士		法律に関する識見を有する学外者	有・無	1
後藤 利美	東京都報道事業健康保険組合常務理事		医療を受ける者その他の医療従事者以外の学外者	有・無	2
小林 清	医学部事務局長		本大学教職員	有・無	3
渡部 弘樹	本部病院経営指導管理オフィス特任課長		本大学教職員	有・無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 981 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 83 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <p>院内で死亡した症例や死産症例の全症例について、現場担当者から死亡に至る状況を聴取し、死亡診断書の有無、部署、報告者、報告日時、患者病歴番号の報告を義務化し、医療安全管理者や担当医師によるカルテ記載の確認を行う。その結果を医療安全管理室連絡会議で報告の上、検証を行い、医療安全管理委員会で検証結果を報告の上、重大事例や早急に改善策が必要となる事例においては、当該事例について、特別症例検討委員会で検討を行い、改善策を立案する。</p>
⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：岩手医科大学附属病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：岩手医科大学附属病院）・無） ・技術的助言の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ① A i（オートプシ・イメージ）の導入 ② 職員カウンセラーの配置 ③ 改善策実施状況の定期的な検証
⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <ul style="list-style-type: none"> ① 患者相談窓口設置時間 毎日／月～金 8：30～17：00 土 8：30～12：00 ② 相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・相談患者等には不利益が無いことを十分に説明し、面談室で相談に応じることで相談時のプライバシーを確保している。 ・当該患者の訴えを丁寧に聴取し解決策をプランニングする。
⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

平成 28 年 6 月 6, 8, 9 日 実施

- ① 平成 27 年度医療安全報告
- ② 中止処方について
- ③ MRI における医療安全
- ④ 個人情報保護と守秘義務について

平成 28 年 11 月 10, 11, 14 日 実施

- ① 特定機能病院の承認要件の見直しについて
- ② 事故事例報告について
- ③ 医薬品の医療法改正と新向精神薬

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○管理者（病院長）

開催日：平成 28 年 5 月 16 日 主催：医療安全共同行動 研修名：病院管理者研修

○医療安全管理責任者（副病院長）

開催日：平成 24 年 11 月 5 日～9 日 主催 関東信越厚生局

研修名：平成 24 年度医療安全に関するワークショップ

開催日：平成 28 年 4 月 15 日 主催：日本脊椎脊髄病学会

研修名：脊椎脊髄外科指導医医療安全対策・感染防止対策・倫理などに対する研修講演会

○医薬品安全管理責任者（薬剤部長）

開催日：平成 28 年 7 月 15 日 主催：一般社団法人日本病院薬剤師会

研修名：平成 28 年度医薬品安全管理責任者等講習会

○医療機器安全管理責任者（中央放射線部技術長）

開催日：平成 28 年 9 月 29 日 主催：都内私大病院安全連絡会議

研修名：第 6 回都内私大病院安全連絡会議「医療安全報告研修会」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・公益財団法人 日本医療機能評価機構，平成26年9月26日～28日（更新） ・公益財団法人 日本医療機能評価機構，平成29年9月14日，15日（更新）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 医療連携制度登録医療機関及び近隣医療機関に対して最新医療情報や各診療科での診療実績、取り組み状況等を掲載した会報誌を年3回発行して情報発信を行っている。また、定期的に公開講座を開き、区民等に対して情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 初診の内科救急患者については、初期対応を総合科が行い、専門領域での診療が必要な場合には各診療科と連携を行い対応している。また、治療方針の決定等で、診療科単独での判断が困難な場合には複数診療科でカンファレンスを行い、患者にとって最良な治療方針を検討している。	

(様式第 8)

医板病公発第 7 3 号
平成 2 9 年 1 0 月 3 日

厚生労働大臣

殿

管理者名 病院長 平山 篤志 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

管理者等においては以下の研修を受講若しくは受講予定にしております。

○管理者（病院長）

開催日：平成 29 年 12 月 8 日 主催：関東信越厚生局

研修名：平成 29 年度医療安全に関するワークショップ（1 日研修）

開催日：平成 30 年 2 月 21～22 日 主催 日本医療機能評価機構

研修日：平成 30 年度特定機能病院管理者研修

○医療安全管理責任者（副病院長）

開催日：平成 30 年 3 月 主催：日本医療機能評価機構認定病院患者安全推進協議会

研修名：平成 29 年度患者安全推進全体フォーラム

○医薬品安全管理責任者（薬剤部長）

開催日：平成 30 年 2 月 21～22 日 主催：日本医療機能評価機構

研修名：平成 29 年度特定機能病院管理者研修

○医療機器安全管理責任者（臨床工学技士室主任）

開催日：平成 29 年 7 月 28 日 主催：日本臨床医学リスクマネジメント学会

研修名：医療安全管理者養成研修

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（6）名、専任（ ）名、兼任（9）名

うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（5）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

専従医師の配置については、平成 30 年 3 月末日までに配置を予定しており、現在、人選を進めております。